

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (49)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第242図 P.L.130	1144	縄文土器 深鉢	755-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線を施文。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1145	縄文土器 深鉢	包No.347 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(5YR7/4)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1146	縄文土器 深鉢	包No.179 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1147	縄文土器 深鉢	755-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画は渦巻文。区画内に円形刺突文を充填。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1148	縄文土器 深鉢	包No.2443 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	地文に櫛歯状工具により条線を施文。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1149	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1150	縄文土器 深鉢	755-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1151	縄文土器 深鉢	包No.176・350・ 745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い赤褐(5YR5/4)	地文に無節LR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1152	縄文土器 深鉢	包No.1693 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰白(10YR8/2)	やや太い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1153	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①粗砂粒多量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面摩滅。太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1154	縄文土器 鉢か注口土器	745-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	胴上部内湾。頸部で屈曲する。LR縄文を施文後、沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1155	縄文土器 深鉢	包No.73 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。やや太く深い沈線で区画。胎土にチャートを含む。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1156	縄文土器 深鉢	740-950G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、太く浅い沈線で区画。区画は渦巻文。胎土にチャート片を含む。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1157	縄文土器 鉢か深鉢	包No.162 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い赤褐(5YR4/3)	胴上部内湾。頸部で屈曲する。頸部に円形刺突文。地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。区画は渦巻文。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1158	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1159	縄文土器 深鉢	包No.67 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③淡黄(2.5Y8/4)	やや細く深い沈線で区画。区画内に無節LR縄文を充填。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1160	縄文土器 鉢か注口土器	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。やや細く深い沈線で区画。胴部が内湾する。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1161	縄文土器 深鉢	包No.559 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③浅黄橙(10YR8/3)	竹管状の円形刺突文を起点に沈線で区画。胴部やや内湾。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1162	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰褐(7.5YR4/2)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1163	縄文土器 深鉢	包No.161 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐灰(5YR4/1)	横位に2条沈線が巡る。区画内にRL縄文を充填。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1164	縄文土器 深鉢	包No.53 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄(2.5Y7/2)	地文にLR縄文を施文後、やや太い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1165	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1166	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②少量 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	表面摩滅。やや太く深い沈線で区画。区画は渦巻文か。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1167	縄文土器 鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③橙(5YR6/6)	地文にLR縄文を施文後、やや太い沈線で区画。胎土にチャートを含む。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1168	縄文土器 深鉢	740-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1169	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 P.L.130	1170	縄文土器 深鉢	包No.948 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内

遺構外出土遺物観察表 (50)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第242図 PL.130	1171	縄文土器 深鉢	包No.167 胴部片		①粗砂粒多量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/3)	やや太く深い沈線で区画。胎土にチャートを含む。	後期堀之内
第242図 PL.130	1172	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	表面摩滅。細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第242図 PL.130	1173	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	指撫での痕跡。胎土にチャートを含む。	後期堀之内
第242図 PL.130	1174	縄文土器 深鉢	740-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第242図 PL.130	1175	縄文土器 深鉢	包No.1698 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	地文にLR縄文を施文後、3条+ $\alpha$ 条を1単位の沈線が懸垂する。	後期堀之内
第242図 PL.130	1176	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰褐(7.5YR6/2)	やや細く浅い沈線で区画。区画は渦巻文。	後期堀之内
第242図 PL.130	1177	縄文土器 深鉢	包No.959 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	縦方向のやや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。	後期堀之内
第242図 PL.130	1178	縄文土器 深鉢	包No.2264 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	やや細く深い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第243図 PL.130	1179	縄文土器 鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い赤褐(5YR5/4)	胴部内湾。地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。破片上部で渦巻文。1101と同一個体。	後期堀之内
第243図 PL.130	1180	縄文土器 深鉢	包No.50・56 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。1142と同一個体か。	後期堀之内
第243図 PL.131	1181	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	胴部破片で丸味を帯びる。地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1182	縄文土器 深鉢	包No.160・745- 945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	やや太く深い沈線で区画。区画内にRL縄文を充填。	後期堀之内
第243図 PL.130	1183	縄文土器 鉢	包No.955 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	胴部内湾。やや太く深い沈線で区画。LR縄文を充填。	後期堀之内
第243図 PL.130	1184	縄文土器 鉢	包No.532 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	胴部内湾。地文にRL縄文を施文後、やや深い沈線で区画。1つの区画は刺突文を充填。蛇行沈線文が1条懸垂する。	後期堀之内
第243図 PL.131	1185	縄文土器 深鉢	740-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	細く深い沈線を左右斜位に施文し、格子目を描く。	後期堀之内
第243図 PL.130	1186	縄文土器 深鉢	包No.929 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1187	縄文土器 深鉢	740-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。	後期堀之内
第243図 PL.131	1188	縄文土器 深鉢	包No.99 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	太く深い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第243図 PL.131	1189	縄文土器 深鉢	包No.940 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/3)	表面やや摩滅。やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1190	縄文土器 深鉢	包No.774 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面摩滅。やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1191	縄文土器 深鉢	包No.2396 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	指撫での痕跡。	後期堀之内
第243図 PL.131	1192	縄文土器 深鉢	包No.2158 胴部片		①粗砂粒中量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面摩滅。やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1193	縄文土器 深鉢	包No.2138 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	表面摩滅。細い沈線で区画。	後期堀之内か
第243図 PL.131	1194	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	横位に指撫での痕跡。	後期堀之内
第243図 PL.131	1195	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第243図 PL.131	1196	縄文土器 深鉢	包No.994 胴部片		①細砂粒多量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	櫛歯状工具による条線を左右斜位に施文。	後期堀之内
第243図 PL.131	1197	縄文土器 深鉢	750-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期堀之内

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (51)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第243図 PL.131	1198	縄文土器 深鉢	包No.595 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1199	縄文土器 鉢	包No.989 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③橙(7.5YR7/6)	表面やや摩滅。やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。胴部内湾。	後期堀之内
第243図 PL.131	1200	縄文土器 深鉢	包No.714・1988 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文後、やや太く深い沈線で区画。区画内を磨消。	後期堀之内
第243図 PL.131	1201	縄文土器 深鉢	740-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に刺突文を充填。	後期堀之内
第243図 PL.131	1202	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第243図 PL.131	1203	縄文土器 深鉢	包No.736 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄(2.5Y7/2)	やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文と磨消。	後期堀之内
第243図 PL.131	1204	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	太く深い沈線で区画。蛇行沈線文が懸垂する。	後期堀之内
第243図 PL.131	1205	縄文土器 鉢	包No.1323 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。区画は渦巻文。胴部内湾。注口土器か。	後期堀之内
第243図 PL.131	1206	縄文土器 深鉢	包No.1141 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期堀之内
第243図 PL.131	1207	縄文土器 深鉢	包No.597 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	表面摩滅。やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.131	1208	縄文土器 深鉢	包No.2380 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第244図 PL.131	1209	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。区画は交互に磨消。	後期堀之内
第244図 PL.131	1210	縄文土器 深鉢	包No.206 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	隆帯が1条巡る。隆帯上に刻目。やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.131	1211	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.131	1212	縄文土器 鉢	包No.1961 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/4)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。胴部内湾。	後期堀之内
第244図 PL.131	1213	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	胴部内湾。地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.131	1214	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.131	1215	縄文土器 深鉢	包No.1424 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや太く浅い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による短い条線を施文。	後期堀之内
第244図 PL.131	1216	縄文土器 深鉢	包No.2103 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	表面摩滅。やや太く深い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第244図 PL.131	1217	縄文土器 深鉢	包No.738 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黄灰(2.5Y5/1)	裏面剥離で欠損。細い沈線を左右斜位に施文し、格子目を描く。	後期堀之内
第244図 PL.131	1218	縄文土器 深鉢	包No.820 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.131	1219	縄文土器 深鉢	包No.814 胴部片		①細砂粒多量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	櫛歯状工具による条線を左右斜位に施文。	後期堀之内
第244図 PL.131	1220	縄文土器 深鉢	包No.901 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	細く深い沈線を左右斜位に施文し、格子目を描く。	後期堀之内
第244図 PL.132	1221	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	櫛歯状工具による条線を縦、左右斜位に施文。	後期堀之内
第244図 PL.132	1222	縄文土器 深鉢	包No.1378 胴部片		①粗砂粒多量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。横位に指撫での痕跡。	後期堀之内
第244図 PL.132	1223	縄文土器 深鉢	包No.2331 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第244図 PL.132	1224	縄文土器 深鉢	包No.1116 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内

遺構外出土遺物観察表 (52)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第244図 PL.132	1225	縄文土器 鉢	確認面 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	胴部内湾。やや太く深い沈線で区画。区画にLR縄文を施文と磨消。	後期堀之内
第244図 PL.132	1226	縄文土器 深鉢	包No.2114・735- 940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(5YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に刺突を施文。	後期称名寺
第244図 PL.132	1227	縄文土器 深鉢	包No.629 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.132	1228	縄文土器 深鉢	包No.1561 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	横位に指撫での痕跡。	後期
第244図 PL.132	1229	縄文土器 深鉢	包No.2407 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐(7.5YR4/3)	やや細く深い沈線で区画。区画は渦巻文、J字状文。	後期称名寺
第244図 PL.132	1230	縄文土器 深鉢	包No.733 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期称名寺
第244図 PL.132	1231	縄文土器 深鉢	包No.1831 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第244図 PL.132	1232	縄文土器 深鉢	包No.1283・2322 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	破片上部は横位、中央から下部は斜位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第244図 PL.132	1233	縄文土器 深鉢	包No.1843 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	斜位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第244図 PL.132	1234	縄文土器 深鉢	包No.2110・735- 940G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第244図 PL.132	1235	縄文土器 深鉢	包No.1256・735- 940G 胴部片		①粗砂粒多量 ②軟質 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	表面摩滅。1条隆帯が懸垂。細く浅い沈線で区画。胴部内湾。	後期
第244図 PL.132	1236	縄文土器 鉢	包No.1835 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③橙(7.5YR6/6)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.132	1237	縄文土器 深鉢	包No.1364 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄(2.5Y6/2)	やや太く深い沈線が懸垂し、区画。	後期堀之内
第244図 PL.132	1238	縄文土器 深鉢	包No.1061・1064 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	破片上部端割口に接合のための刻目。やや細く深い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第244図 PL.132	1239	縄文土器 深鉢	包No.2174・2175 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く浅い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第244図 PL.132	1240	縄文土器 深鉢	包No.2179 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第244図 PL.132	1241	縄文土器 深鉢	包No.2212 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第244図 PL.132	1242	縄文土器 深鉢	包No.2185 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1243	縄文土器 深鉢	包No.2051 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	胴部は外傾。細く鋭く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1244	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	胴部内湾。地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1245	縄文土器 深鉢	包No.2256 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	横位に指撫での痕跡。器面に凹凸。胎土にチャート片を含む。	後期
第245図 PL.132	1246	縄文土器 深鉢	包No.2319 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1247	縄文土器 深鉢	包No.1186・735- 940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い赤褐(5YR4/4)	細く浅い沈線で区画。区画内に刺突文を施文。	後期
第245図 PL.132	1248	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	指撫での痕跡。	後期
第245図 PL.132	1249	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰褐(5YR6/2)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1250	縄文土器 深鉢	包No.2180・735- 940G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③灰褐(5YR4/2)	横位、斜位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第245図 PL.132	1251	縄文土器 深鉢	包No.1117 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黒褐(10YR3/1)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1252	縄文土器 深鉢	包No.1305 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期



第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (53)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第245図 PL.132	1253	縄文土器 深鉢	包No.1161・735- 940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黄灰(2.5Y5/1)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR 縄文を施文。	後期堀之内
第245図 PL.132	1254	縄文土器 深鉢	包No.1197・735- 940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐灰(5YR4/1)	地文にLR縄文を施文後、やや深く深い 沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1255	縄文土器 深鉢	包No.2193 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1256	縄文土器 深鉢	包No.511 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰褐(7.5YR6/2)	斜位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第245図 PL.132	1257	縄文土器 深鉢	包No.398 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	表面摩滅。太く浅い沈線で区画。区画内 にLR縄文を施文。胎土にチャート片を 含む。	後期堀之内
第245図 PL.132	1258	縄文土器 深鉢	包No.1120・735- 940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②軟質 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	表面摩滅。やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1259	縄文土器 深鉢	740-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。地文にLR縄文を施文後、や や太く浅い沈線で区画。胎土にチャート 片を含む。	後期堀之内
第245図 PL.132	1260	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	斜位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第245図 PL.132	1261	縄文土器 深鉢	包No.495 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い 沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.132	1262	縄文土器 深鉢	包No.399 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.133	1263	縄文土器 深鉢	包No.1900 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	胴部内湾。櫛歯状工具による条線を施 文。	後期
第245図 PL.133	1264	縄文土器 深鉢	包No.2203 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。左 右斜位に施文し、格子目を描く。	後期
第245図 PL.133	1265	縄文土器 深鉢	740-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.133	1266	縄文土器 深鉢	740-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.133	1267	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや太く浅い沈線で区画。円形の貼付 文、貼付文の内側に刺突文。	後期堀之内
第245図 PL.132	1268	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画は渦巻 文。	後期堀之内
第245図 PL.133	1269	縄文土器 鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	胴部内湾。やや細く深い沈線で区画。区 画は渦巻文か。	後期堀之内
第245図 PL.133	1270	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③浅黄(2.5Y7/3)	やや細く深い沈線と細く浅い沈線で区 画。	後期堀之内
第245図 PL.133	1271	縄文土器 深鉢	760-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	太く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文 を施文。	後期堀之内
第245図 PL.133	1272	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い 沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.133	1273	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第245図 PL.133	1274	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	円形刺突文を中心に弧状沈線文。やや太 く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を 施文。	後期堀之内
第245図 PL.133	1275	縄文土器 深鉢	760-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文に櫛歯状工具による条線を縦位に施 文。	後期
第245図 PL.133	1276	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。	後期堀之内
第245図 PL.133	1277	縄文土器 深鉢	包No.1797 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く深い沈線を1条横位に巡る。櫛 歯状工具による条線を斜位に施文。	後期
第245図 PL.133	1278	縄文土器 深鉢	740-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	櫛歯状工具による条線を縦位、斜位に施 文。	後期
第245図 PL.133	1279	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内

遺構外出土遺物観察表 (54)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第245図 P.L.133	1280	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	横位指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第245図 P.L.133	1281	縄文土器 深鉢	包No.2388 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	沈線と蛇行沈線が懸垂する。	後期堀之内
第245図 P.L.133	1282	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線 で区画。	後期堀之内
第245図 P.L.133	1283	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文 を施文。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1284	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	横位指撫で後、篋状工具による撫で、削 り。	後期
第246図 P.L.133	1285	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴部内湾。やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1286	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	胴部内湾。地文にLR縄文を施文後、や や太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1287	縄文土器 深鉢	760-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、細く浅い沈線 で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1288	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	懸垂する沈線で区画。区画内を櫛歯状工 具による条線を充填。	後期
第246図 P.L.133	1289	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1290	縄文土器 深鉢	740-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1291	縄文土器 鉢	750-945G 包No.55 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	胴部内湾。地文にLR縄文を施文後、や や太く深い沈線で区画。円形区画内に把 手。把手欠損。把手下に隆帯2条懸垂。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1292	縄文土器 深鉢	包No.1852 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	櫛歯状工具による条線を縦位および斜位 に施文。	後期
第246図 P.L.133	1293	縄文土器 深鉢	760-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	横位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第246図 P.L.133	1294	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	沈線で施文。胴部がやや膨らむ形状。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1295	縄文土器 深鉢	760-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/4)	胴部やや内湾。櫛歯状あるいは木口状工 具による条線を縦位に施文。	後期
第246図 P.L.133	1296	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1297	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	3本1単位の懸垂文と弧状沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1298	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	懸垂する蛇行沈線文。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1299	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③淡黄(2.5YR8/3)	沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1300	縄文土器 深鉢	包No.1944 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第246図 P.L.133	1301	縄文土器 深鉢	760-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い 沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1302	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰白(10YR8/2)	太い沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1303	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	太く浅い沈線で区画。区画は円形文を描 き、円形文の下側が懸垂する。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1304	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、沈線を施文。	後期堀之内
第246図 P.L.134	1305	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線 で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1306	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	垂下する沈線で区画。区画内にLR縄文 を充填。	後期堀之内
第246図 P.L.134	1307	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	懸垂する沈線と蛇行沈線で区画。区画内 に刺突文を施文。	後期堀之内

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (55)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第246図 P.L.133	1308	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	沈線で区画。区画内にR L縄文を充填。	後期
第246図 P.L.133	1309	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	細く浅い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1310	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1311	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	3本1単位の懸垂する沈線を起点に弧状沈線を施文。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1312	縄文土器 鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	胴部から口縁部の境界で内側に屈曲。屈曲部に横位隆帯と沈線。弧状沈線を施文。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1313	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	沈線で区画。	後期堀之内
第246図 P.L.133	1314	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にR L縄文を施文後、沈線で区画。区画内を磨消。	後期堀之内
第246図 P.L.134	1315	縄文土器 深鉢	740-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	やや細く深い沈線で区画。区画内にL R縄文を施文と磨消。	後期堀之内
第246図 P.L.134	1316	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	沈線で渦巻文を区画。	後期堀之内
第246図 P.L.134	1317	縄文土器 深鉢	包No2229 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	やや細く深い沈線で区画。	後期
第246図 P.L.134	1318	縄文土器 深鉢	755-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	懸垂する沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1319	縄文土器 深鉢	包No2221 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴部やや内湾。櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期
第247図 P.L.134	1320	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	太く深い沈線で、蛇行し懸垂する。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1321	縄文土器 深鉢	760-945G 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	地文にL R縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1322	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	沈線で区画。区画内にL R縄文を充填。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1323	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	直線的な沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1324	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	横位に1条の沈線、下位に3本の弧状沈線。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1325	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	沈線で区画。沈線の間隔が狭い。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1326	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	櫛歯状工具による条線が蛇行して懸垂する。	後期
第247図 P.L.134	1327	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	沈線で区画。区画内に円形の刺突文を施文。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1328	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文にL R縄文を施文後、弧状の沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1329	縄文土器 深鉢	755-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③淡黄(2.5Y8/3)	懸垂する沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1330	縄文土器 深鉢	750-940G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	頸部から口縁部片で、口唇部を欠損。頸部で屈曲。頸部に円形の刺突文を上下に2つつなげ、8の字状に施文。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1331	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	地文にL R縄文を施文後、沈線を施文。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1332	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	円形の押圧文を起点に沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1333	縄文土器 深鉢	包No185 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文にR L縄文を施文後、3本1単位の垂下沈線と蛇行沈線文を施文。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1334	縄文土器 深鉢	760-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③浅黄橙(7.5YR8/4)	外面に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期

遺構外出土遺物観察表 (56)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第247図 P.L.134	1335	縄文土器 深鉢	760-945G 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	太く深い沈線で区画。区画内に刺突文を施文。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1336	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③明褐(7.5YR5/6)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1337	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1338	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	曲線的な沈線で区画。区画内に円形刺突文を施文。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1339	縄文土器 深鉢	755-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	縦位に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第247図 P.L.134	1340	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	縦位に沈線を施文。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1341	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1342	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	細く浅い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第247図 P.L.134	1343	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1344	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③橙(7.5YR6/6)	指撫での痕跡で、器面に凹凸。	後期
第247図 P.L.134	1345	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、3本1単位の太く浅い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1346	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	懸垂する隆帯と沈線で施文。隆帯に刻目。	後期
第247図 P.L.134	1347	縄文土器 鉢	750-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/4)	沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1348	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1349	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/3)	浅い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1350	縄文土器 鉢か注口土器	750-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/3)	把手上半分欠損。把手下に円形刺突文が上下に2個。円形刺突文を中心に弧状沈線。外側の弧状沈線は懸垂する。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1351	縄文土器 鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	内側に屈曲する。そろばん玉型の器形。細かい沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1352	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄(2.5Y6/3)	沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1353	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(5YR6/3)	沈線で区画。破片上部の割口に接合のための刻目。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1354	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1355	縄文土器 鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文にLR縄文を施文後、やや細い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1356	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	やや細く深い沈線で区画。区画内に刺突文を施文。	後期称名寺
第247図 P.L.134	1357	縄文土器 深鉢	740-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(10YR7/3)	細く浅い沈線を縦位、斜位に施文。	後期
第247図 P.L.134	1358	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③黄褐(2.5Y5/3)	地文にLR縄文を施文後、太い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.134	1359	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	頭部に横位に2条の沈線が巡る。下にLR縄文を施文。	後期堀之内
第247図 P.L.135	1360	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.135	1361	縄文土器 鉢	755-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。区画内を磨消。	後期堀之内
第247図 P.L.135	1362	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (57)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第247図 P.L.135	1363	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	地文にLR縄文を施文後、横位に1条の沈線で区画。	後期堀之内か
第247図 P.L.135	1364	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、細い沈線で区画。	後期堀之内
第247図 P.L.135	1365	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文後、沈線で区画。	後期
第247図 P.L.135	1366	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、細い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1367	縄文土器 深鉢	包No.1929・1932 -1933 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③明黄褐(10YR6/6)	破片右上部にわずかに垂下沈線がみられる。	後期
第248図 P.L.135	1368	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1369	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1370	縄文土器 深鉢	740-935G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	波状口縁。波頂部先端部欠損。隆帯で区画。区画内に円形刺突文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1371	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	深く細い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1372	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①粗砂粒中量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1373	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画は渦巻文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1374	縄文土器 鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③橙(7.5YR6/6)	地文にLR縄文を施文後、細く浅い沈線で区画。区画は渦巻文か。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1375	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③黄灰(2.5Y5/1)	やや細く浅い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1376	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	櫛歯状工具による条線が懸垂する。	後期
第248図 P.L.135	1377	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1378	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄(2.5Y6/2)	細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1379	縄文土器 深鉢	750-930G 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1380	縄文土器 深鉢	745-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③黄灰(2.5Y6/1)	櫛歯状工具により条線を施文。	後期
第248図 P.L.135	1381	縄文土器 深鉢	750-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1382	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1383	縄文土器 深鉢	740-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1384	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1385	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1386	縄文土器 深鉢	包No.1971 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1387	縄文土器 深鉢	包No.1778 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③暗黄灰(2.5Y5/2)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第248図 P.L.135	1388	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③暗黄灰(2.5Y5/2)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1389	縄文土器 深鉢	735-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1390	縄文土器 深鉢	包No.1884 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	櫛歯状工具による条線を施文。	後期

## 遺構外出土遺物観察表 (58)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第248図 P.L.135	1391	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや太く浅い沈線を縦位および斜位に施文。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1392	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。一部区画内に刺突文を施文。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1393	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	横位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第248図 P.L.135	1394	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1395	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1396	縄文土器 深鉢	包No.2090 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1397	縄文土器 深鉢	包No.1735 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1398	縄文土器 深鉢	包No.3 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	櫛歯状工具による条線を縦位、左右の斜位に施文し、格子目を描く。	後期
第248図 P.L.135	1399	縄文土器 深鉢	740-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1400	縄文土器 鉢	735-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	胴部から口縁部の境界で屈曲。屈曲部に刻目。胴部にやや太く深い沈線を施文。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1401	縄文土器 深鉢	包No.14 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	横位に指撫での痕跡。器面に凹凸。	後期
第248図 P.L.135	1402	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰(5Y6/1)	地文にLR縄文を施文後、蛇行沈線文が懸垂する。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1403	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1404	縄文土器 深鉢	包No.33・101 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1405	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1406	縄文土器 深鉢	包No.675 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1407	縄文土器 深鉢	包No.25 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1408	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴部内湾。やや細く深い沈線で区画。	後期称名寺
第248図 P.L.135	1409	縄文土器 深鉢	740-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を波状に施文。	後期
第248図 P.L.135	1410	縄文土器 深鉢	750-850G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	8の字状の貼付文を横位施文。8の字状文を起点にやや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第248図 P.L.135	1411	縄文土器 深鉢	包No.230 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y5/1)	地文にLR縄文を施文後、太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.135	1412	縄文土器 深鉢	包No.13 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.135	1413	縄文土器 深鉢	包No.13 口縁破片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	円形の貼付文を起点にやや細く浅い沈線で施文。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1414	縄文土器 深鉢	760-955G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1415	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く深い沈線で区画。区画は渦巻文。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.135	1416	縄文土器 深鉢	735-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黄灰(2.5Y5/1)	地文にLR縄文を施文後、細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1417	縄文土器 深鉢	760-965G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄(2.5Y6/3)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1418	縄文土器 深鉢	760-965G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で施文。	後期堀之内



第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (59)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第249図 P.L.136	1419	縄文土器 深鉢	740-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1420	縄文土器 深鉢	740-945G・745- 945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③褐灰(10YR4/1)	やや細く浅い沈線が懸垂する。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1421	縄文土器 深鉢	760-965G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面摩滅。やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1422	縄文土器 深鉢	包No.1386 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く浅い沈線で区画。胴部外傾。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1423	縄文土器 深鉢	包750-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1424	縄文土器 深鉢	750-900G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。写真のみ掲載。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1425	縄文土器 深鉢	包No.1333・1491 ・735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	胴部内湾。8の字状貼付文。深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1426	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。やや太く深い沈線で区画。	後期
第249図 P.L.136	1427	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文に櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期
第249図 P.L.136	1428	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1429	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄(2.5Y7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1430	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、蛇行沈線文を施文。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1431	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1432	縄文土器 深鉢	包No.1281 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1433	縄文土器 深鉢	750-880G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1434	縄文土器 深鉢	750-895G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。胎土にチャート片を含む。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1435	縄文土器 深鉢	750-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1436	縄文土器 深鉢	包No.2078 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ④灰黄褐(10YR6/2)	地文に櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期
第249図 P.L.136	1437	縄文土器 深鉢	745-900G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1438	縄文土器 深鉢	包No.2094 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	櫛歯状工具による条線を左右斜位に施文し、格子目を描く。	後期
第249図 P.L.136	1439	縄文土器 深鉢	750-880G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1440	縄文土器 深鉢	755-895G 胴部片		①細砂粒多量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1441	縄文土器 深鉢	755-895G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	横位に1条隆帯貼付。地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1442	縄文土器 深鉢	包No.1045 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	胴部内湾。やや細く深い沈線で区画。区画内を櫛歯状工具による条線を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1443	縄文土器 深鉢	750-890G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1444	縄文土器 深鉢	735-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1445	縄文土器 深鉢	750-895G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1446	縄文土器 深鉢	730-900G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	沈線で区画。	後期堀之内

遺構外出土遺物観察表 (60)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第249図 P.L.136	1447	縄文土器 深鉢	750-870G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	地文にLR縄文を施文後、蛇行沈線が懸垂する。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1448	縄文土器 深鉢	750-845G 胴部片		①細砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。区画内にRL縄文を施文。区画は渦巻文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1449	縄文土器 深鉢	750-895G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y5/1)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1450	縄文土器 深鉢	750-880G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1451	縄文土器 深鉢	750-895G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に刺突文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1452	縄文土器 深鉢	755-895G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文後、太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1453	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/3)	やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1454	縄文土器 深鉢	750-845G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	表面摩滅。やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1455	縄文土器 深鉢	740-865G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	細く浅い沈線を左右斜位に施文し、格子目を描く。	後期
第249図 P.L.136	1456	縄文土器 深鉢	730-890G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画、区画内にRL縄文を施文。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1457	縄文土器 深鉢	745-860G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1458	縄文土器 深鉢	740-860G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(7.5YR8/4)	やや細く深い沈線で区画。区画は渦巻文。区画内に刺突文を施文。	後期称名寺
第249図 P.L.136	1459	縄文土器 深鉢	745-860G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	胴部内湾。やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第249図 P.L.136	1460	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。胎土に黒曜石片を含む。	後期
第249図 P.L.136	1461	縄文土器 深鉢	750-900G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第250図 P.L.136	1462	縄文土器 深鉢	740-920G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③褐灰(10YR4/1)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第250図 P.L.136	1463	縄文土器 深鉢	745-915G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.136	1464	縄文土器 深鉢	745-880G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.136	1465	縄文土器 深鉢	740-880G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.136	1466	縄文土器 深鉢	750-845G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.136	1467	縄文土器 深鉢	750-895G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/4)	櫛歯状工具による条線を刺突文状に施文。	後期
第250図 P.L.136	1468	縄文土器 深鉢	755-950G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄(2.5Y7/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による短い条線を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.136	1469	縄文土器 深鉢	750-900G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや太く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.136	1470	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや太く浅い沈線で区画。区画内を櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第250図 P.L.136	1471	縄文土器 深鉢	745-880G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.136	1472	縄文土器 深鉢	735-865G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期称名寺
第250図 P.L.136	1473	縄文土器 深鉢	745-900G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③褐灰(10YR5/1)	やや細く深い沈線で区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.137	1474	縄文土器 深鉢	750-895G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (61)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第250図 P.L.137	1475	縄文土器 深鉢	745-900G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黒褐 (5YR3/1)	地文にLR縄文を施文後、細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1476	縄文土器 深鉢	735-915G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.137	1477	縄文土器 深鉢	735-915G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1478	縄文土器 深鉢	735-890G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細い沈線と細い沈線で施文。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1479	縄文土器 深鉢	745-915G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い蛇行沈線文が懸垂する。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1480	縄文土器 深鉢	740-890G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1481	縄文土器 深鉢	735-890G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1482	縄文土器 深鉢	735-845G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面やや摩滅。やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1483	縄文土器 深鉢	740-865G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1484	縄文土器 深鉢	735-905G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	細く鋭い沈線で区画。区画内LR縄文を施文。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1485	縄文土器 深鉢	740-870G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	やや太く深い蛇行沈線が懸垂する。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1486	縄文土器 深鉢	735-915G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③明赤褐(10YR6/6)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1487	縄文土器 深鉢	745-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1488	縄文土器 深鉢	730-885G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1489	縄文土器 深鉢	730-855G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや太く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1490	縄文土器 深鉢	735-915G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1491	縄文土器 深鉢	735-860G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄褐(10YR5/4)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1492	縄文土器 深鉢	730-880G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期
第250図 P.L.137	1493	縄文土器 深鉢	730-865G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1494	縄文土器 深鉢	730-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。胎土にチャート片を含む。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1495	縄文土器 深鉢	740-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画は蛇行沈線。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1496	縄文土器 深鉢	730-885G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を縦位に施文。胎土にチャート片を含む。	後期
第250図 P.L.137	1497	縄文土器 深鉢	755-900G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	櫛歯状工具による条線を縦位に施文。	後期
第250図 P.L.137	1498	縄文土器 深鉢	735-910G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1499	縄文土器 深鉢	735-890G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1500	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1501	縄文土器 深鉢	735-915G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く深い沈線と1条の隆帯で区画。隆帯上に刻目。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.137	1502	縄文土器 深鉢	730-900G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや太く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内

遺構外出土遺物観察表 (62)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第250図 P.L.137	1503	縄文土器 深鉢	755-910G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1504	縄文土器 深鉢	740-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1505	縄文土器 深鉢	735-860G・風倒 木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄褐(10YR5/4)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1506	縄文土器 深鉢	740-875G・2風 倒木 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1507	縄文土器 深鉢	730-875G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③明黄褐(10YR7/6)	貼付文を起点に細い沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1508	縄文土器 深鉢	740-890G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/4)	地文にLR縄文を施文後、細く深い沈 線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1509	縄文土器 深鉢	740-885G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	やや細く深い沈線で区画。区画内にLR 縄文を施文。	後期称名寺
第250図 P.L.137	1510	縄文土器 深鉢	755-910G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い 沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1511	縄文土器 深鉢	755-910G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い 沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1512	縄文土器 深鉢	740-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い 沈線で区画。	後期堀之内
第250図 P.L.137	1513	縄文土器 深鉢	755-910G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(5YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画内を細く 鋭い沈線で施文。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1514	縄文土器 深鉢	730-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	やや細く深い沈線で区画。区画内に櫛歯 状工具による条線を施文。	後期
第251図 P.L.137	1515	縄文土器 深鉢	755-900G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや細く深い沈線で区画。	後期称名寺
第251図 P.L.137	1516	縄文土器 深鉢	730-870G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1517	縄文土器 深鉢	745-870G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第251図 P.L.137	1518	縄文土器 深鉢	755-905G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い 沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1519	縄文土器 深鉢	730-870G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	8の字状貼付文を起点にやや細く浅い沈 線で区画。区画に刺突文を施文。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1520	縄文土器 深鉢	735-860G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1521	縄文土器 深鉢	755-915G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い 沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1522	縄文土器 深鉢	740-875G・2風 倒木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1523	縄文土器 深鉢	755-910G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/4)	やや細く深い沈線で区画。	後期称名寺
第251図 P.L.137	1524	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③橙(7.5YR6/6)	やや細く浅い沈線で区画。1535と同一個 体の可能性。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1525	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1526	縄文土器 深鉢	740-860G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1527	縄文土器 深鉢	6風倒木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、太く浅い沈線 で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1528	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや細く浅い沈線で区画。区画は渦巻 文。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1529	縄文土器 深鉢	735-860G・風倒 木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y7/2)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1530	縄文土器 深鉢	780-905G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い 沈線で区画。蛇行沈線が懸垂する。	後期堀之内

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (63)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第251図 P.L.137	1531	縄文土器 深鉢	表土 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1532	縄文土器 深鉢	740-865・5 風倒 木 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1533	縄文土器 深鉢	表土 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1534	縄文土器 深鉢	表土 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い赤褐(5YR5/3)	胴部内湾。破片上端が頸部で口縁が外傾すると推定。地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。区画は渦巻文から懸垂文。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1535	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③橙(7.5YR6/6)	やや細く浅い沈線で区画。1524と同一個体の可能性。	後期堀之内
第251図 P.L.137	1536	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/8)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1537	縄文土器 深鉢	735-875G・1 風 倒木 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1538	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1539	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	やや太く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1540	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1541	縄文土器 深鉢	740-905G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③黒褐(10YR3/1)	細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第251図 P.L.138	1542	縄文土器 深鉢	10 風倒木 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	やや太く深い沈線で区画。区画内に円形刺突文を施文。	後期称名寺
第251図 P.L.138	1543	縄文土器 深鉢	735-875G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1544	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に刺突文を施文。	後期称名寺
第251図 P.L.138	1545	縄文土器 深鉢	780-900G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	やや太く深い沈線で区画。蛇行沈線が懸垂する。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1546	縄文土器 深鉢	750-905G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1547	縄文土器 深鉢	6 風倒木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや太く深い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1548	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	櫛歯状工具による条線を左右斜位に施し、格子目を描く。	後期
第251図 P.L.138	1549	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	やや太く深い沈線とやや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期称名寺
第251図 P.L.138	1550	縄文土器 深鉢	735-875G・1 風 倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	胴部内湾。円形の貼付文を起点に沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1551	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	細く深い沈線で区画。区画内に刺突文を施文。	後期称名寺
第251図 P.L.138	1552	縄文土器 深鉢	735-860G・風倒 木 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く浅い沈線で区画。区画に櫛歯状工具による条線を施文。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1553	縄文土器 深鉢	表土 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い赤褐(5YR5/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1554	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文。細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1555	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③明黄褐(10YR6/6)	やや細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期堀之内
第251図 P.L.138	1556	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③暗灰黄(2.5Y4/2)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第251図 P.L.138	1557	縄文土器 深鉢	735-875G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや細く深い沈線で区画。	後期堀之内

遺構外出土遺物観察表 (64)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第252図 PL.138	1558	縄文土器 深鉢	735-870G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y7/2)	地文に櫛歯状工具による条線を施文後、 やや細く浅い沈線で区画。	後期
第252図 PL.138	1559	縄文土器 深鉢	740-915G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第252図 PL.138	1560	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第252図 PL.138	1561	縄文土器 深鉢	1 風倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	細く浅い沈線で区画。	後期堀之内
第252図 PL.138	1562	縄文土器 蓋	750-980G 1/6残存	口径 (13.0) 底径 - 高さ (2.3)	①粗砂粒多量 ②良好 ③明赤褐(2.5YR5/6)	内面に丁寧に整形。外面は指、籠状工具 の撫でか雑で器面に凹凸が残る。	後期
第252図 PL.138	1563	縄文土器 深鉢	750-950G 底部1/2~胴下部	口径 - 底径 (7.6) 高さ (6.6)	①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	指撫での痕跡で、器面に凹凸。胴下部は わずかに内湾して立ち上がる。	後期 307と同一個体
第252図 PL.138	1564	縄文土器 注口土器	745-930G 注口破片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	注口土器の注口部破片。注口基部で胴部 と剥離。注口基部上部で把手が付く。	後期
第252図 PL.138	1565	縄文土器 注口土器	740-935G 注口破片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	注口部先端の内側は円形で基部は楕円 形。内径は10mm前後。	後期
第252図 PL.138	1566	縄文土器 深鉢	包No.285・1673 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	小突起が付く。小突起下に貼付文。口唇 部に刻目。横位沈線で区画。区画内に縄 文を充填。1567・1576と同一個体可能 性。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1567	縄文土器 深鉢	745-950G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	口縁部内湾。2本の横位沈線で区画。区 画内にLR縄文を充填。1566・1576と同 一個体の可能性。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1568	縄文土器 深鉢	735-890G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	口縁部外傾し、口唇部内側に張り出す。 細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文 を施文。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1569	縄文土器 鉢	包No.1167・1198 ・2252 口縁~胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	波状口縁。口縁部外傾。口縁部上部と下 部に細く浅い沈線を左右斜位に施文し、 格子目を描く。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1570	縄文土器 鉢	包No.636・706・ 797・740-945G 口縁部~胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	胴部は丸味を帯びて立ち上がる。口縁部 は内側に屈曲し、内傾する。屈曲部に刻 目。口唇部にLR縄文を施文。胴部、や や細く浅い沈線で区画。	後期加曾利B 1571と同一個体の 可能性
第252図 PL.138	1571	縄文土器 鉢	740-945G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部は内側に屈曲し、内傾する。屈曲 部に刻目。口唇部にLR縄文を施文。	後期加曾利B 1570と同一個体の 可能性
第252図 PL.138	1572	縄文土器 深鉢	包No.1521 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③黒褐(10YR3/2)	表面やや摩滅。波状口縁。LR縄文を施 文後、細く浅い沈線で区画。幅広い区画 は磨消。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1573	縄文土器 深鉢	包No.1723・1724 ・1737 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴上部は外反する。やや細く浅い沈線で 区画。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1574	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	破片上部と下部に3本1単位、4本1単 位の横位沈線が巡る。沈線の間にLR縄 文を施文。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1575	縄文土器 鉢	735-940G 口縁部片		①細砂粒少量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	波状口縁。口縁部外傾。細い沈線で施 文。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1576	縄文土器 深鉢	包No.335 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	口縁部内湾。横位沈線で区画。区画内に LR縄文を充填。1566・1567と同一個 体の可能性。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1577	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	横位沈線で区画。	後期加曾利B
第252図 PL.138	1578	縄文土器 深鉢	包No.1382 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	胴部片で屈曲部か。隆帯1条巡り、隆帯 上に刻目。細い沈線で区画。区画内にLR 縄文を施文。	後期加曾利B



第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (65)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第252図 P.L.138	1579	縄文土器 鉢	735-940G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文に細く浅い沈線を斜位に施文。	後期加曽利B
第252図 P.L.138	1580	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄(2.5Y6/3)	細く鋭い沈線で区画。区画内RL縄文を 充填。	後期加曽利B
第252図 P.L.138	1581	縄文土器 深鉢	755-930G 底部片	口径 — 底径 6.6 高さ 2.2	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	底面から胴部境界でやや内側に入り、外 反気味に立ち上がる。	後期
第253図 P.L.139	1582	縄文土器 深鉢	確認面 口縁部突起		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	波状口縁。波頂部に突起。口縁部内湾。 やや細く深い沈線を施文。	後期
第253図 P.L.139	1583	縄文土器 深鉢	確認面 口縁部片突起・ 把手		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	波状口縁。波頂部に突起。波頂部下に円 形の孔、孔の下に把手がつく。やや太く 深い沈線で施文。	後期
第253図 P.L.139	1584	縄文土器 深鉢	確認面 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/4)	波状口縁。LR縄文を施文。	後期
第253図 P.L.139	1585	縄文土器 鉢	760-955G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	口縁部やや内湾する。口縁にそって横位 2条沈線が巡る。幅広い隆帯貼付。隆帯 にそって沈線。RL縄文を施文。	後期
第253図 P.L.139	1586	縄文土器 深鉢	760-960G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	波状口縁。口縁部内湾。幅広く、平坦な 隆帯で、円形、半円を描く。	後期
第253図 P.L.139	1587	縄文土器 深鉢	755-950G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	口縁部やや内湾。口唇部に1条沈線が巡 る。低い隆帯と沈線の組合せて区画。	後期
第253図 P.L.139	1588	縄文土器 深鉢	755-945G 口縁部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	口縁部外傾し立ち上がる。微隆帯を横位 に1条貼付。	後期
第253図 P.L.139	1589	縄文土器 深鉢	755-960G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	波状口縁。波頂部がやや内湾すると推定 される。	後期
第253図 P.L.139	1590	縄文土器 深鉢	包No.1711 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部やや内湾。横位に1条隆帯を貼 付。	後期
第253図 P.L.139	1591	縄文土器 深鉢	包No.48・260・ 935・936・745- 940G 口縁部片	口径 (22.3) 底径 — 高さ (5.2)	①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	口縁部強く内湾。口唇部が直立する。	後期
第253図 P.L.139	1592	縄文土器 深鉢	760-955G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部やや外反気味に立ち上がる。口縁 部下にやや細い沈線が横位に巡る。	後期
第253図 P.L.139	1593	縄文土器 深鉢	No.1590 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部外反。口縁下に1条隆帯が巡る。	後期
第253図 P.L.139	1594	縄文土器 深鉢	745-950G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	やや細く深い沈線で区画。区画内に円形 刺突文を充填。	後期
第253図 P.L.139	1595	縄文土器 深鉢	755-945G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	口縁やや内湾。隆帯を貼付区画。	後期
第253図 P.L.139	1596	縄文土器 深鉢	745-945G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	口縁が外側に屈曲し、胴部が丸味を帯び る。	後期
第253図 P.L.139	1597	縄文土器 深鉢	包No.374 口縁部片・把手		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	波状口縁。波頂部に把手。口縁部外傾。 口唇部内側に屈曲し、内側に張り出す。	後期
第253図 P.L.139	1598	縄文土器 深鉢	740-945G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	口縁部外傾。口唇部内側が肥厚する。地 文にLR縄文を施文。	後期
第253図 P.L.139	1599	縄文土器 深鉢	745-945G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部やや内湾気味。地文にLR縄文を 施文。	後期
第253図 P.L.139	1600	縄文土器 深鉢	包No.916・確認面 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部わずかに外反して立ち上がる。地 文にLR縄文を施文。胎土にチャート含 む。	後期か
第253図 P.L.139	1601	縄文土器 深鉢	750-945G 口縁部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	口縁部わずかに外傾して立ち上がる。地 文にLR縄文を施文。	後期
第253図 P.L.139	1602	縄文土器 浅鉢	740-895G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	口縁部は内側に屈曲。屈曲部に隆帯貼 付。隆帯に刻目。	後期
第253図 P.L.139	1603	縄文土器 深鉢	包No.721 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	口縁部外傾して立ち上がる。	後期
第253図 P.L.139	1604	縄文土器 深鉢	750-950G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部は外傾する。外面に磨きの痕跡。	後期

遺構外出土遺物観察表 (66)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第253図 P.L.139	1605	縄文土器 深鉢	745-945G・確認 面 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部わずかに外反して立ち上がる。地 文にLR縄文を施文。	後期
第253図 P.L.139	1606	縄文土器 深鉢	包No.330 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	表面摩滅。細い沈線で区画。	後期
第253図 P.L.139	1607	縄文土器 深鉢	包No.1962 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	口縁部やや外反して立ち上がる。口縁部 下に1条隆帯が巡る。胴部はやや細く深 い沈線で区画。	後期
第253図 P.L.139	1608	縄文土器 深鉢	包750-950G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	波状口縁。口縁部外傾して立ち上がる。	後期
第253図 P.L.139	1609	縄文土器 深鉢	750-940G 口縁部片・把手		①細砂粒中量 ②普通 ③褐灰(5YR4/1)	波状口縁。波頂部に把手。	後期
第253図 P.L.139	1610	縄文土器 深鉢	760-935G 口縁部片・把手		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	波状口縁。波頂部に把手。口唇部が内側 に屈曲。	後期
第253図 P.L.139	1611	縄文土器 深鉢	750-945G 口縁部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	波状口縁。口縁部やや外反気味。	後期
第253図 P.L.139	1612	縄文土器 深鉢	750-910G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黒褐(10YR3/1)	地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。	後期
第253図 P.L.139	1613	縄文土器 鉢	750-935G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(5YR6/4)	口縁部内湾。口縁部下に横位に1条微隆 起帯が巡る。	後期
第253図 P.L.139	1614	縄文土器 鉢	包No.1495 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	口縁部内湾。径5mm程の孔。	後期
第253図 P.L.139	1615	縄文土器 深鉢	740-945G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部やや内湾する。	後期
第253図 P.L.139	1616	縄文土器 深鉢	735-945G 口縁部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	口縁部外反。やや細く浅い沈線で区画。	後期
第253図 P.L.139	1617	縄文土器 深鉢	750-940G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	口縁部下に1条の微隆起帯が巡る。微隆 起帯下に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第254図 P.L.139	1618	縄文土器 深鉢	包No.2081 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	口縁部外反。口唇部が外側に肥厚する。 沈線で区画。	後期
第254図 P.L.139	1619	縄文土器 深鉢	包No.468 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y6/1)	口縁部は内側に屈曲し、口唇部内側が肥 厚。沈線と円形刺突文で構成。	後期
第254図 P.L.139	1620	縄文土器 深鉢	包No.1287 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/3)	口縁部内湾。内外面とも横方向の磨き。	後期
第254図 P.L.139	1621	縄文土器 深鉢	735-940G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③明褐灰(7.5YR7/2)	口唇部が外側に屈曲。隆帯と沈線で区 画。口唇部に円形貼付文。	後期
第254図 P.L.139	1622	縄文土器 深鉢	1 風倒木 口縁部片・突起		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄(2.5Y7/3)	波状口縁。口縁部内湾。	後期
第254図 P.L.139	1623	縄文土器 深鉢	740-885G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	口縁部内湾。	後期
第254図 P.L.139	1624	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	口縁部外傾。	後期
第254図 P.L.139	1625	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/3)	沈線で区画。	後期
第254図 P.L.139	1626	縄文土器 深鉢	735-860G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	口縁部外傾。口唇部内側が肥厚。	後期
第254図 P.L.139	1627	縄文土器 深鉢	735-855G・風倒 木 口縁部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	口縁部やや内湾。	後期
第254図 P.L.139	1628	縄文土器 深鉢	740-860G 口縁部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部わずかに内湾。地文にLR縄文を 施文。	後期
第254図 P.L.140	1629	縄文土器 深鉢	10風倒木 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(5YR6/4)	波状口縁。波頂部から微隆起帯で区画。 やや深く深い沈線が1条巡る。	後期
第254図 P.L.140	1630	縄文土器 深鉢	735-875G・1 風 倒木 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	口縁部内湾。やや細く浅い沈線で区画。	後期
第254図 P.L.140	1631	縄文土器 深鉢	包No.1096 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部内湾気味。やや細く深い沈線で区 画後、RL縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1632	縄文土器 深鉢	735-855G・風倒 木 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄(2.5Y8/3)	口縁部外傾。やや細く深い沈線で区画。	後期

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (67)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第254図 P.L.139	1633	縄文土器 深鉢	750-940G 口縁部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	口縁部に横位1条の微隆起状の凸帯。	後期
第254図 P.L.139	1634	縄文土器 深鉢	745-945G 口縁部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	口縁部やや内湾。地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1635	縄文土器 深鉢	755-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	細い沈線が懸垂し区画。	後期
第254図 P.L.140	1636	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	地文に無節R1縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1637	縄文土器 深鉢	755-955G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1638	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面摩滅。隆帯で区画。区画内に円形刺突文を充填。	後期
第254図 P.L.140	1639	縄文土器 深鉢	760-955G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	表面摩滅。刺突文を全面に施文。	後期
第254図 P.L.140	1640	縄文土器 深鉢	750-955G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄(2.5Y6/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1641	縄文土器 深鉢	755-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細い沈線で区画。区画内にLR縄文充填。	後期称名寺
第254図 P.L.140	1642	縄文土器 深鉢	包No.312 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	やや細く深い沈線で区画。	後期
第254図 P.L.140	1643	縄文土器 深鉢	760-955G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	表面やや摩滅。櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第254図 P.L.140	1644	縄文土器 深鉢	包No.1714・1716 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴下部破片で、外傾して立ち上がる。地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1645	縄文土器 深鉢	750-955G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	地文に無節Lr縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1646	縄文土器 深鉢	750-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	地文に無節Lr縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1647	縄文土器 深鉢	包No.1653 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	隆帯を貼付、隆帯に刻目を施す。地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1648	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/3)	やや中広の沈線を縦位に施文。	中期
第254図 P.L.140	1649	縄文土器 深鉢	765-955G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	幅広く平坦な隆帯で区画。隆帯の端部に沈線を施文。	後期
第254図 P.L.140	1650	縄文土器 深鉢	包No.2137 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1651	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	地文にLR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1652	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③青黒(5PB2/1)	地文にRL縄文を施文後、沈線を施文。	後期堀之内
第254図 P.L.140	1653	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	細く浅い沈線で区画。区画内にLR縄文を充填。	後期称名寺
第254図 P.L.140	1654	縄文土器 深鉢	包No.1275 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	胴部内湾。細く深い沈線で区画。	後期
第254図 P.L.140	1655	縄文土器 深鉢	750-955G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	表面やや摩滅。地文にRL縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1656	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	細く浅い沈線で施文。LR縄文を施文。	後期
第254図 P.L.140	1657	縄文土器 深鉢	包No.1304 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③橙(5YR6/6)	やや細く深い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による条線を施文。	後期
第254図 P.L.140	1658	縄文土器 深鉢	包No.70・71 胴部片		①細砂粒少量 ②軟質 ③灰白(10YR8/2)	縦位に沈線を施文。	後期
第255図 P.L.140	1659	縄文土器 深鉢	745-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1660	縄文土器 深鉢	表採 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期

遺構外出土遺物観察表 (68)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第255図 P.L.140	1661	縄文土器 深鉢	包No.321 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1662	縄文土器 深鉢	包No.2147 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1663	縄文土器 深鉢	包No.1383 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1664	縄文土器 深鉢	750-950G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや細い沈線で区画。区画内に櫛歯状工 具による刺突文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1665	縄文土器 鉢	確認面 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1666	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	やや細く浅い沈線で区画。区画内に刺突 文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1667	縄文土器 鉢か注口土器	包No.661 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴部で屈曲する。屈曲部が隆带状に高ま る。把手を欠損。注口土器か。	後期堀之内
第255図 P.L.140	1668	縄文土器 深鉢	包No.2276 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1669	縄文土器 深鉢	包No.1576 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文後、やや太く浅い 沈線で区画。	後期堀之内
第255図 P.L.140	1670	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い赤褐(5YR5/3)	胴部内湾。口縁部やや外傾か。やや細く 浅い沈線により区画。1674と同一個体。	後期
第255図 P.L.140	1671	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴部やや内湾。地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1672	縄文土器 深鉢	735-940G, 包No.1194 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/3)	半月状の刺突文が2列連続して施文。	後期
第255図 P.L.140	1673	縄文土器 深鉢	包No.1002 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	底部からゆるやかに外傾して立ち上がる 器形。沈線で区画。	後期
第255図 P.L.140	1674	縄文土器 深鉢	735-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い赤褐(5YR5/3)	胴部内湾。やや細く浅い沈線で区画。 1670と同一個体。	後期
第255図 P.L.140	1675	縄文土器 深鉢	包No.1524 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐灰(7.5YR4/1)	地文にRL縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1676	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1677	縄文土器 深鉢	包No.440・475・ 567 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	地文に無節LR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.141	1678	縄文土器 深鉢	包No.1069・735- 940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1679	縄文土器 深鉢	包No.448 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1680	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	破片上部の割口に接合のための刻目が施 される。地文にLR縄文を施文。	後期か
第255図 P.L.140	1681	縄文土器 注口土器	包No.1149・735- 940G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③明褐灰(7.5YR7/2)	注口部を欠損。注口部の孔。やや細く浅 い沈線で区画。	後期
第255図 P.L.140	1682	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文に無節LR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.140	1683	縄文土器 深鉢	740-950G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文後、沈線で区画。	後期
第255図 P.L.141	1684	縄文土器 深鉢	包No.1760 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	連続する刺突文を施文。	後期
第255図 P.L.141	1685	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.141	1686	縄文土器 深鉢	745-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	地文に無節RL縄文を施文後、やや細く 浅い沈線で区画。	後期
第255図 P.L.141	1687	縄文土器 深鉢	包No.2173 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/8)	地文にLR縄文を施文。	後期
第255図 P.L.141	1688	縄文土器 深鉢	包No.1868 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	地文にLR縄文を施文。	後期

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (69)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第255図 P.L.141	1689	縄文土器 深鉢	包No479・481 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	地文に無節L r 縄文を施文。	後期
第255図 P.L.141	1690	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	L R 縄文を施文。	後期
第255図 P.L.141	1691	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴部外傾。地文にL R 縄文を施文。1692 と同一個体。	後期
第256図 P.L.141	1692	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄(2.5Y6/2)	胴部外傾。地文にL R 縄文を施文。1691 と同一個体。	後期
第256図 P.L.141	1693	縄文土器 深鉢	包No.1894 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1694	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	胴部内湾。地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1695	縄文土器 深鉢	755-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1696	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1697	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面やや摩滅。地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1698	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文に櫛歯状工具による条線を縦位に施 文。	後期
第256図 P.L.141	1699	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR6/2)	地文に櫛歯状工具による条線を縦位に施 文。	後期
第256図 P.L.141	1700	縄文土器 深鉢	確認面 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1701	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1702	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1703	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黒褐(2.5Y3/1)	細く浅い沈線で区画。	後期
第256図 P.L.141	1704	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	細く鋭い沈線で区画。	後期
第256図 P.L.141	1705	縄文土器 深鉢	包No2219・2220 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1706	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1707	縄文土器 深鉢	包No409 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1708	縄文土器 深鉢	750-945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1709	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②やや 軟③橙(7.5YR6/6)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1710	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文に無節L r 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1711	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③暗灰黄(2.5Y5/2)	地文に無節L r 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.142	1712	縄文土器 深鉢	包No.1940 胴部片		①粗砂粒少量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/4)	胴部外傾。丁寧な磨き。	後期
第256図 P.L.141	1713	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1714	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文に櫛歯状工具による条線(9 + α条) を曲線的に施文。	後期
第256図 P.L.141	1715	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にL R 縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1716	縄文土器 深鉢	750-930G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR6/4)	地文に櫛歯状工具による条線を施文。	後期

遺構外出土遺物観察表 (70)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第256図 P.L.141	1717	縄文土器 深鉢	745-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1718	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	櫛歯状工具による深い条線。条線は4 + α条。	後期
第256図 P.L.141	1719	縄文土器 深鉢	750-935G 胴部片		①細砂粒少量 ②軟質 ③橙(7.5YR7/6)	細く深い沈線で区画。	後期
第256図 P.L.141	1720	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1721	縄文土器 深鉢	755-930G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	隆帯で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.141	1722	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	櫛歯状工具による条線が縦位に施文。	後期
第256図 P.L.142	1723	縄文土器 深鉢	包No.1414 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	地文にLR縄文を施文後、横位に1条隆 帯が巡る。	後期
第256図 P.L.141	1724	縄文土器 深鉢	750-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	横位に隆帯とその上下に沈線を施文。隆 帯上に刻目。LR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.142	1725	縄文土器 深鉢	包No.506 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.142	1726	縄文土器 深鉢	包No.1122 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR4/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.142	1727	縄文土器 深鉢	745-945G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR5/4)	胴部外傾。地文にLR縄文を施文。	後期
第256図 P.L.142	1728	縄文土器 深鉢	755-895G 胴部片		①粗砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1729	縄文土器 深鉢	包No.1971・745- 945G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	胴部外傾して立ち上がる。地文にLR縄 文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1730	縄文土器 深鉢	750-885G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや深く深い沈線で区画。	後期
第257図 P.L.142	1731	縄文土器 深鉢	735-935G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	表面摩滅。地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1732	縄文土器 深鉢	745-880G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1733	縄文土器 深鉢	750-885G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1734	縄文土器 深鉢	包No.100 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1735	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	細く浅い沈線で区画。	後期
第257図 P.L.142	1736	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	細く鋭い沈線で区画。	後期
第257図 P.L.142	1737	縄文土器 深鉢	755-915G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文後、やや細く浅い 沈線で区画。	後期
第257図 P.L.142	1738	縄文土器 深鉢	745-890G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1739	縄文土器 深鉢	735-875G・1 風 倒木 胴部片		①粗砂粒多量 ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1740	縄文土器 深鉢	735-875G・1 風 倒木 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1741	縄文土器 深鉢	745-860G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	やや細く鋭く深い沈線で区画。	後期
第257図 P.L.142	1742	縄文土器 深鉢	740-875G 胴部片		①細砂粒多量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1743	縄文土器 深鉢	745-805G 胴部片		①細砂粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1744	縄文土器 深鉢	730-865G・風倒 木 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	隆帯1条が懸垂。隆帯の両端部に沈線。 地文にLR縄文を施文。	後期



第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (71)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第257図 P.L.142	1745	縄文土器 深鉢	750-905G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	胴部内湾。やや細く深い沈線で区画。区画内にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1746	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	細く鋭い沈線で区画。	後期
第257図 P.L.142	1747	縄文土器 深鉢	730-855G 胴部片		①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1748	縄文土器 深鉢	740-905G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴下部破片。地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1749	縄文土器 深鉢	740-895G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄(2.5Y6/3)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1750	縄文土器 深鉢	740-905G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1751	縄文土器 深鉢	740-850G 底部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	深鉢の底部片。外面に網代痕。	後期
第257図 P.L.142	1752	縄文土器 深鉢	730-890G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③褐灰(10YR4/1)	細い沈線で区画。区画は菱形。	後期
第257図 P.L.142	1753	縄文土器 深鉢	735-870G 胴部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(5YR6/4)	地文に刺突文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1754	縄文土器 深鉢	750-900G 口～頸部片	口径 (12.9) 底径 - 高さ (7.4)	①細砂粒中量 ②良好 ③黄灰(2.5Y4/1)	胴上部内湾。口縁部やや外反。胴上部に1条横位隆帯。隆帯上に刻目。	後期
第257図 P.L.142	1755	縄文土器 深鉢	包No.886 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	口縁部外反し立ち上がる。	後期
第257図 P.L.142	1756	縄文土器 深鉢	包No.835 口縁部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	波状口縁。口縁部内側に隆帯状の貼付が1列巡る。胎土にチャート片を含む。	後期
第257図 P.L.142	1757	土製品 不明	750-940G 破片		①粗砂粒中量 ②軟質 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	表面摩滅。上下は端部で、左右が割口。土製品であるが、把手の可能性。	後期
第257図 P.L.142	1758	縄文土器 深鉢	包No.282・1675 口縁部片		①粗砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	口縁部やや外傾し立ち上がる。4条+α条の櫛歯状工具による条線。	後期
第257図 P.L.142	1759	土師器 甕	755-940G 胴部片		①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄褐(10YR5/3)	縦方向の篋削り。	6C
第257図 P.L.142	1760	縄文土器 深鉢	760-935G 胴部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	懸垂する2本の沈線で区画。区画内はRL縄文を施文。	中期
第257図 P.L.142	1761	縄文土器 深鉢	755-940G 胴部片		①細砂粒中量 ②軟質 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	地文にLR縄文を施文。	後期
第257図 P.L.142	1762	縄文土器 深鉢	包No.1827 胴部片		①細砂粒多量 ②良好 ③灰黄褐(10YR5/2)	やや太く深い沈線で区画。区画内に櫛歯状工具による短い条線を施文。	後期 称名寺
第257図 P.L.142	1763	縄文土器 蓋	表土 1/8		①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄(2.5Y7/4)	径4mm程の孔2基。焼成前に作成。	後期
第257図 P.L.142	1764	縄文土器 蓋	包No.1035 1/4	口径 - 底径 (14.4) 高さ -	①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	指撫で、指押えの痕跡。	後期
第257図 P.L.142	1765	縄文土器 蓋	750-940G 破片		①細砂粒中量 ②良好 ③橙(5YR6/6)	両端部欠損。摘みは橋状把手のようである。橋状部分を欠損。	後期
第257図 P.L.142	1766	縄文土器 土製品	750-950G ほぼ完形	口径 3.8 底径 - 高さ 1.5	①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	底部丸底で、体部～口縁部丸味を帯びる。小型丸底鉢。	後期
第257図 P.L.142	1767	縄文土器 小型鉢	740-950G 口縁部～底部	口径 (6.4) 底径 4.2 高さ 2.9	①細砂粒中量 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	底部丸底。口縁部外傾。内面口縁部横方向の篋撫で。	後期
第257図 P.L.142	1768	縄文土器 蓋	735-945G 1/3	口径 - 底径 (11.6) 高さ (3.1)	①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄(2.5Y8/3)	指撫で、指押えの痕跡。	後期
第258図 P.L.142	1769	縄文土器 深鉢	750-940G 底部片	口径 - 底径 (5.2) 高さ (2.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(5YR6/3)	底部に網代痕。底部から胴下部は、内側に挟れ、外側に広く器形。	後期 加曾利B

## 遺構外出土遺物観察表 (72)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第258図 PL.142	1770	縄文土器 深鉢	包No.210 底部～胴下部	口径 - 底径 4.0 高さ (3.3)	①細砂粒中量 ②普通 ③褐灰(10YR5/1)	小型土器か。底部下端より内側に入り、徐々に外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.142	1771	縄文土器 深鉢	755-955G 底部	口径 - 底径 5.4 高さ (3.2)	①粗砂粒中量 ②良好 ③橙(5YR6/6)	表面摩滅。胴下部はやや外傾する。	後期
第258図 PL.142	1772	縄文土器 深鉢	745-945G 底部1/2	口径 - 底径 (6.0) 高さ (2.5)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙(7.5YR7/6)	胴部下部は外傾。	後期
第258図 PL.142	1773	縄文土器 深鉢	750-940G 底部片	口径 - 底径 6.4 高さ (2.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	底部下端より胴下部はやや外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.142	1774	縄文土器 深鉢	735-915G 底部片	口径 - 底径 7.0 高さ 2.9	①粗砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	底部から胴下部はやや内側に入り、外傾する。	後期
第258図 PL.143	1775	縄文土器 深鉢	750-950G 底部片	口径 - 底径 5.0 高さ -	①細砂粒中量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/3)	胴下部は外傾し立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1776	縄文土器 深鉢	包No.2073 底部片	口径 - 底径 7.4 高さ (3.9)	①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴下部はやや丸味帯び外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1777	縄文土器 深鉢	760-955G 底部	口径 - 底径 7.2 高さ (4.6)	①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	底部の底面中央部が窪む。	後期
第258図 PL.143	1778	縄文土器 深鉢	740-950G 底部片	口径 - 底径 (11.4) 高さ (5.8)	①細砂粒中量 ②良好 ③灰黄(2.5Y7/2)	胴下部はやや強く外傾して立ち上がる。地文にLR縄文を施文。	後期
第258図 PL.143	1779	縄文土器 深鉢	730-865G 風倒木 底部1/2	口径 - 底径 8.5 高さ -	①細砂粒中量 ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	胴下部は外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1780	縄文土器 深鉢	750-950G 底部3/4	口径 - 底径 9.0 高さ -	①細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙(10YR8/4)	底部中央付近に抉れ。	後期
第258図 PL.143	1781	縄文土器 深鉢	760-945G 底部～胴下部	口径 - 底径 (7.0) 高さ (6.9)	①粗砂粒中量 ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	胴下部外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1782	縄文土器 深鉢	760-955G 底～胴部	口径 - 底径 9.1 高さ -	①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	底部から胴下部は外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1783	縄文土器 深鉢	760-955G 胴部～底部	口径 - 底径 10.1 高さ (11.1)	①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	胴下部は丸味を帯び外傾し、破片上部で直立気味に立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1784	縄文土器 深鉢	755-870G 底部片	口径 - 底径 (5.8) 高さ (4.1)	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	胴部は外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1785	縄文土器 深鉢	包No.2417 胴部片	口径 - 底径 (5.4) 高さ (3.9)	①細砂粒少量 ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	底部外周部が厚い。胴下部外傾して立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1786	縄文土器 鉢	包No.492・505・ 745・1615・1999 ・740-940G 1/2	口径 14.9 底径 8.2 高さ 7.9	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	胴部は丸味を帯び、口縁部は直立気味に立ち上がる。	後期
第258図 PL.143	1787	縄文土器 深鉢	765-955G 底部～胴部下部	口径 - 底径 (7.4) 高さ (12.3)	①細砂粒少量 ②普通 ③浅黄(2.5Y7/3)	胴下部は直線的で外傾する。	後期
第258図 PL.143	1788	縄文土器 深鉢	755-960G 底部片	口径 23.4 底径 17.2 高さ 7.7	①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	胴下部は外傾して立ち上がる。	後期

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (73)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第258図 P.L.143	1789	縄文土器 深鉢	735-875G 1風倒木 胴～底部	口径 — 底径 10.3 高さ (12.1)	①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴下部外傾して立ち上がる。	後期
第258図 P.L.143	1790	縄文土器 深鉢	包No.700 底部片		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い橙(7.5YR7/4)	胴下部は外傾して立ち上がる。沈線が懸垂する。	後期
第259図 P.L.143	1791	縄文土器 深鉢	包No.1038・1040 ・1043 底部～胴下部	口径 — 底径 (12.2) 高さ (10.9)	①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	胴下部は外傾して立ち上がる。	後期
第259図 P.L.143	1792	縄文土器 深鉢	755-955G 胴部片	口径 — 底径 14.4 高さ —	①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	胴部は外傾して直線的に立ち上がる。	後期か
第259図 P.L.143	1793	縄文土器 深鉢	735-905G 胴部～底部	口径 — 底径 8.6 高さ (21.2)	①粗砂粒中量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/4)	胴下部はわずかに丸味を帯び外傾して立ち上がる。外面に縦方向に磨き。	後期
第259図 P.L.143	1794	土製品 不明	745-950G 破片		①細砂粒少量 ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	上下は端部。左右割口。表面は丸味を帯び、裏面は平坦。表面にLR縄文を施文。把手の可能性も考えられる。	後期
第259図 P.L.143	1795	土製品 不明	包No.1228 破片		①細砂粒中量 ②普通 ③黄灰(2.5Y4/1)	表裏面はやや丸味を帯び、表面にLR縄文施文。上下とも端部で左右は割口。把手の可能性も考えられる。	後期
第259図 P.L.143	1796	土製品 土錘	755-945G ほぼ完形	長さ 3.45 幅 2.65 厚み 1.4	①細砂粒中量 ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	平面形は楕円形で偏平。長軸、短軸方向に十字状に細い沈線。	後期
第259図 P.L.143	1797	土製品 土錘	735-940G 完形		①細砂粒中量 ②普通 ③鈍い褐(7.5YR6/3)	深鉢形土器の胴部片を再利用。表面にLR縄文を施文。上下端部に抉れ、擦痕。紐をかけた痕跡。両側縁は磨き。	後期
第259図 P.L.143	1798	土製品 垂飾	包No.136 ほぼ完形	長さ 8.2 幅 2.3 孔径 0.5	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	手捏。上部が幅広く、下部へ徐々に細くなる。上部で両側面に径4mm程の孔。	後期
第259図 P.L.143	1799	土製品 土錘	740-905G 破片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/4)	縦方向に径2mm程の孔。表面に沈線を施文。	後期
第259図 P.L.143	1800	土製品 不明	735-915G 1/3残	口径 (4.2) 底径 (4.0) 高さ 1.4	①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR6/3)	内面は直線的、外面は中央部が凹み、曲線的に立ち上がる。上面に2列細い串状工具の刺突文を施文。	後期
第259図 P.L.143	1801	土製品 不明	755-910G 完形	幅 1.8 高さ 1.8 厚さ 0.8	①細砂粒少量 ②良好 ③鈍い橙(5YR6/4)	上端部に面取。中央部が厚く、端部が薄くなる。	後期
第259図 P.L.143	1802	土製品 不明	735-860G 破片		①細砂粒少量 ②普通 ③鈍い黄橙(10YR7/2)	破片下端部に横位に径3mm前後の孔が貫通。手捏。	縄文時代
第259図 P.L.144	1803	古銭	755-915G ほぼ完形	径 22.07 厚み 1.37	十銭アルミ貨。「大日□□昭和十□□」銘。桜の花のデザイン。		現代
第260図 P.L.144	1804	土師器 壺	755-950G 口縁部片		①細砂粒中量 ②良好 ③鈍い黄橙(10YR7/3)	折返し口縁。木口状工具による撫で。	4世紀
第260図 P.L.144	1805	須恵器 碗	包No.113 完形	口径 15.3 底径 6.2 高さ 7.5	①粗砂粒中量 ②還元焰・良好 ③灰(5Y6/1)	轆轤右回転成形。底部回転糸切り後高台貼付。高台貼付のための撫で。体部は丸味帯びて立ち上がり、口唇部は水平近くまで外反する。	9世紀後半
第260図 P.L.144	1806	須恵器 碗	760-960G 1/2	口径 13.1 底径 6.4 高さ 5.15	①細砂粒少量 ②還元焰・良好 ③灰(5Y5/1)	轆轤右回転成形。底部回転糸切り後、高台貼付。高台貼付のための撫で。体部は外傾して立ち上がる。	9世紀後半
第260図 P.L.144	1807	須恵器 坏	730-855G 2/3	口径 14.0 底径 5.6 高さ 5.3	①粗砂粒中量 ②酸化焰・普通 ③橙(7.5YR7/6)	器形が歪む。轆轤右回転成形。底部回転糸切り。体部下部篋削り。体部はやや丸味を帯びて立ち上がる。	9世紀後半
第260図 P.L.144	1808	須恵器 長頸壺	包No.12 頸部～口縁部	口径 11.4 底径 — 高さ 12.0	①細砂粒少量 ②良好 ③灰白(2.5Y7/1)	轆轤左回転成形。胴部と別成形で接合。口縁部は外反。口縁部内面から頸部に自然軸。	9世紀初め

遺構外出土遺物観察表 (74) \*石器計測値①長さ(mm) ②幅(mm) ③厚さ(mm) ④重量(g)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第260図 PL.144	1809	土師器 高坏	735-945G 包No.2393 脚部	口径 - 底径 - 高さ (14.6)	①粗砂粒中量 ②普通 ③橙(5YR6/6)	裾部と坏部の大半を欠損。裾部は段を1段有し、広がる。脚部は縦方向篋削り。	5世紀
第260図 PL.144	1810	石器 石鏃	735-940G 完形	① 28 ② 16 ③ 3 ④ 1.15		有茎石鏃。側縁の形状は直線的であるが右側縁の一部が抉れる。調整加工は、器体全面に施す。	チャート
第260図 PL.144	1811	石器 石鏃	745-930G 完形	① 18 ② 14 ③ 4 ④ 0.82		凹基無茎鏃。側縁の形状はやや膨らむ。抉りはやや浅い。調整加工は器体全面に施す。	黒色安山岩
第260図 PL.144	1812	石器 石鏃	735-940G 先端部左返し欠	①(36) ② 19 ③ 3.5 ④ 1.75		凹基無茎鏃。側縁の形状は直線的である。抉りは深い。調整加工は器体全面に施す。	チャート
第260図 PL.144	1813	石器 石鏃	735-940G 先端部左返し欠	①(28) ②(17) ③ 3 ④ 1.20		凹基無茎鏃。側縁の形状は膨らむ。抉りは深い。調整加工は器体全面に施す。	黒色安山岩
第260図 PL.144	1814	石器 石鏃	No.187 ほぼ完形	① 18 ② 10.5 ③ 2.5 ④ 0.33		凹基無茎鏃。細長い形状。側縁は直線的。抉れはやや浅い。表面に1次剥離面をやや大きく残す。調整加工はほぼ器面全体に施す。	黒曜石
第260図 PL.144	1815	石器 石鏃	745-840G 完形	① 20.5 ② 11.0 ③ 3.0 ④ 0.62		凹基無茎鏃。側縁の形状は直線的であるが、先端がやや膨らむ。抉りは浅い。調整加工は、器体全面で微細で丁寧。	黒曜石
第260図 PL.144	1816	石器 石鏃	750-910G 先端部欠損	①(21) ② 14.5 ③ 3.5 ④ 0.90		凹基無茎鏃。側縁の形状はやや膨らむ。抉りは浅い。調整加工は器面全体に施す。	チャート
第260図 PL.144	1817	石器 石鏃	755-905G 完形	① 14.0 ② 9.5 ③ 2.5 ④ 0.31		平基無茎鏃。小型。側縁の形状は膨らむ。調整加工は器面全体に施す。	黒曜石
第260図 PL.144	1818	石器 石鏃	No.137 左返し欠損	① 33 ② 15 ③ 3 ④ 0.85		凹基無茎鏃。側縁の形状は直線的である。抉りは深い。調整加工は、器体全面に施す。	チャート
第260図 PL.144	1819	石器 打製石斧	包No.314 抉れ部から刃部	①(57) ② 63 ③ 16 ④ 64.4		平面形は分銅形で、両側縁が強く抉れる。刃部は弧状になる。抉れ部表裏面に、着柄時の擦れ、摩滅。刃部表裏面に使用による摩滅。	黒色頁岩
第260図 PL.144	1820	石器 打製石斧	確認面埋土 基部	①(43) ② 55 ③ 17 ④ 59.1		平面形は短冊形。表面に自然面を多く残す。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1821	石器 打製石斧	包No.286 抉れ部から基部	①(58) ② 61 ③ 25 ④ 93.0		平面形は分銅形と推定。両側縁が浅く抉れる。表裏面にわずかに自然面を残す。一つの礫より作り出す。表面上縁に摩滅。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1822	石器 打製石斧	包No.1339 抉れ部から刃部	①(80) ② 77 ③ 29 ④ 185.0		平面形は分銅形で、抉れ部から基部を欠損。左側縁が強く、右側縁が浅く抉れる。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1823	石器 打製石斧	包No.1525 完形	①109 ② 67 ③ 24.5 ④ 199.3		平面形は分銅形で、両側縁が強く抉れる。やや裏面側に反る。表面抉れ部にわずかに自然面を残す。抉れ部に着柄時の擦れ、摩滅。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1824	石器 石核	750-930G	① 62 ② 52 ③ 31.5 ④ 101.1		一部、自然面を残す。打面を作出し、部分的には縦長状の剥片を剥離している。ナイフ形石器製作に係わる石核と推定される。	黒色頁岩
第261図 PL.144	1825	石器 打製石斧	735-945G 基部	①(49) ② 46 ③ 27.5 ④ 85.0		平面形は分銅形と推定。基部上縁は直線的である。表裏面にわずかに自然面を残す。両側縁、上縁は細い調整剥離。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1826	石器 打製石斧	No.75 抉れ部から基部	①(63) ② 60 ③ 31 ④ 131.7		平面形は分銅形と推定され、抉れは両側縁とも浅い。上縁は直線的である。両側縁と上縁に調整剥離を施す。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1827	石器 打製石斧	No.77 完形	① 99 ② 73 ③ 17 ④ 140.8		平面形は分銅形で、両側縁が深く抉れる。基部上縁は弧状。器面全体に風化。抉れ部の両側縁に着柄時の摩滅。	ホルンフェルス
第261図 PL.144	1828	石器 打製石斧	No.89 ほぼ完形	① 85 ② 61 ③ 28 ④ 145.2		平面形は分銅形で、右側縁が、やや深く抉れ、左側縁は浅く抉れる。刃部一部欠損。表面に自然面を残す。表裏面の抉れ部やや上部に着柄時の摩滅。	黒色頁岩
第261図 PL.145	1829	石器 打製石斧	755-910G 完形	① 95 ② 78 ③ 18 ④ 168.1		平面形は分銅形で、両側縁が深く抉れる。基部上縁は直線的で刃部として使用。抉れ部表裏面に着柄時の摩滅。刃部と基部上縁に摩滅痕がみられる。	黒色頁岩
第261図 PL.145	1830	石器 打製石斧	1 風倒木 抉れ部から基部	①(81) ② 70 ③ 22 ④ 122.2		平面形は分銅形で、両側縁が抉れる。裏面に自然面をわずかに残す。	灰色安山岩
第262図 PL.145	1831	石器 打製石斧	包No.1602 基部	①(52) ② 53 ③ 18 ④ 59.2		平面形は分銅形と推定。右側縁は深く抉れ、上縁は弧状となる。表面に自然面を多く残す。裏面は両側縁、上縁に調整剥離を施す。	ホルンフェルス
第262図 PL.145	1832	石器 打製石斧	1 風倒木 抉れ部	①(40) ②(58) ③ 20 ④ 53.7		平面形は分銅形で、両側縁が抉れる。両側縁に着柄時の摩滅がわずかにみられる。	ホルンフェルス

第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (75) \*石器計測値①長さ(mm) ②幅(mm) ③厚さ(mm) ④重量(g)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	器形・技法等の特徴	備考
第262図 PL.145	1833	石器 打製石斧	735-905G 完形	① 138 ② 78 ③ 22 ④ 236.1	平面形は撓形。左側縁が直線的で、右側縁中央付近がわずかに抉れる。刃部に最大巾。右側縁を主に連続する剥離調整。	ホルンフェルス
第262図 PL.145	1834	石器 打製石斧	確認面 完形	① 116 ② 57 ③ 18 ④ 121.6	平面形は分銅形で、両側縁が浅く抉れる。表面に自然面を多く残し、刃部、表裏面に使用による擦痕および摩滅。	細粒輝石安山岩
第262図 PL.145	1835	石器 石核	735-910G ほぼ完形	① 36 ② 41 ③ 14 ④ 22.1	正面上下端部から剥離している。裏面は左側縁及び下端部から剥離している。	チャート
第262図 PL.145	1836	石器 剥片	735-945G ほぼ完形	① 44 ② 50 ③ 14.5 ④ 22.4	正面に一部自然面を残す。貝殻状の剥片である。	黒色安山岩
第262図 PL.145	1837	石器 石核?	735-945G ほぼ完形	① 24 ② 33 ③ 12.5 ④ 10.78	一部、自然面を残す。表裏面ともに不定形方向から剥離している。石鏃製作に伴う石核の可能性があらう。	チャート
第262図 PL.145	1838	石器 原石	包No551 ほぼ完形	① 45 ② 49 ③ 41 ④ 108.6	気泡を多く含む原石で、加熱されている可能性もある。	黒曜石
第262図 PL.145	1839	石器 石鏃?	No.29 未製品	① 17 ② 12 ③ 3.5 ④ 0.59	表裏面ともに調整加工が認められる。石鏃製作に伴う破損品と推定される。	黒曜石
第262図 PL.145	1840	石器 両端石器	No.224 ほぼ完形	① 31 ② 38 ③ 11.5 ④ 15.69	表裏面ともに上下端部から剥離を施している。器体左右側縁部は湾曲している。	黒色安山岩
第262図 PL.145	1841	石器 剥片	No.165 ほぼ完形	① 225 ② 240 ③ 8.0 ④ 4.38	上端部に自然面を残す。正面は縦長状の剥離を施すとともに、下端部からの剥離も施されているが、剥片であろう。	褐色碧玉
第262図 PL.145	1842	石器 削器	No.205 ほぼ完形	① 29 ② 41 ③ 7.5 ④ 6.52	下端部に明瞭ではないが、一部刃部加工が施されている。削器として使用された可能性があらう。	黒色安山岩
第262図 PL.145	1843	石器 石核	No.201 ほぼ完形	① 30 ② 30.5 ③ 30.5 ④ 30.6	一部、自然面を残す。打点転移し、貝殻状剥片を剥離している。石鏃製作に伴う石核の可能性があらう。	黒色頁岩
第262図 PL.145	1844	石器 剥片	No.157 ほぼ完形	① 22 ② 32 ③ 6 ④ 4.01	上端部に自然面を残す。貝殻状の剥片である。	黒曜石
第263図 PL.145	1845	石器 石核?	No.248 ほぼ完形	① 36 ② 40 ③ 17.5 ④ 19.17	正面の一部に自然面を残す。表裏面ともに不定形方向から剥離している。側縁部全周から剥離を施している。	チャート
第263図 PL.145	1846	石器 削器	2区表土 ほぼ完形	① 53 ② 41 ③ 10 ④ 27.9	上端部に自然面を残す。横長剥片を素材とし、正面左側縁部に刃部加工を施している。	黒色頁岩
第263図 PL.145	1847	石器 削器	No.131 ほぼ完形	① 49 ② 36 ③ 13.5 ④ 19.17	上端右側縁部に自然面を残す。縦長状の剥片を素材としている。	黒色頁岩
第263図 PL.145	1848	石器 剥片	750-905G ほぼ完形	① 415 ② 15 ③ 11.5 ④ 6.33	一部、自然面を残す。側縁部の不定形方向からの剥離を施している。	黒曜石
第263図 PL.145	1849	石器 磨石	740-950G 上端部	① (32.0)② (69.5) ③ (40.0)④ 98.0	平面形は楕円形か。器面全体に磨痕。上縁によく磨られた痕。	粗粒輝石安山岩
第263図 PL.145	1850	石器 磨・敲石	755-960G 上半部	① (81.5)② (156.0) ③ 46 ④ 646.3	平面形は円形か。偏平。表裏面平坦で、磨痕。上縁から右側縁は敲痕。	粗粒輝石安山岩
第263図 PL.145	1851	石器 磨石	755-950G 下半部欠損	① (44) ② 59 ③ 11 ④ 38.3	平面形は楕円形。偏平。表裏面、両側縁、上縁に磨痕。表裏面とも平坦。表面はよく磨られている。	粗粒輝石安山岩
第263図 PL.145	1852	石器 磨・敲石	755-955G 下半分欠損	① (73) ② (85) ③ 61 ④ 549.7	平面形は楕円形。右側上部に敲き痕。中央付近の割れ口に磨痕がみられる。割れた後の再利用。	粗粒輝石安山岩
第263図 PL.145	1853	石器 磨・敲石	包No52 完形	① 95 ② 90.5 ③ 16 ④ 194.8	平面形は円形。偏平。表裏面、上下縁、両側縁に磨痕。右側縁に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第263図 PL.145	1854	石器 磨・凹石	包No236 下半部欠損	① (52.0)② (60.5) ③ 26.5 ④ 112.3	平面形は隅丸長方形。やや偏平。表面中央に凹み。表面の凹み周辺、裏面、両側縁、上縁に磨痕。	粗粒輝石安山岩
第263図 PL.145	1855	石器 磨・敲・凹石	745-945G 上縁部で大半を欠損	① (40) ② (77) ③ (40.5)④ 135.5	平面形は楕円形。裏面に凹み、凹み周辺と表面、上縁に磨痕。上縁部に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1856	石器 磨・敲石	包No112 左半分欠損	① (130) ② (61.5) ③ 30 ④ 300.2	平面形は隅丸長方形。偏平。全体に磨痕。下縁に敲痕。	変質安山岩
第264図 PL.145	1857	石器 凹・磨・敲石	755-950G 下半分欠損	① (85.5)② 88 ③ 57 ④ 534.6	平面形は楕円形。やや厚みがある。表・裏面中央部に凹み。凹み周辺部に磨跡。上面から両側面に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1858	石器 凹・磨・敲石	包No930 右上半部	① (67) ② (50) ③ 30 ④ 123.7	平面形は円形。偏平。表・裏面に磨痕。裏面に凹み。右側縁に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1859	石器 凹・磨・敲石	包No237 下縁部欠損	① (91.5)② 90.0 ③ 62.0 ④ 769.5	平面形はやや楕円形。表面中央部に凹み。器面全体に磨痕。上縁部に敲痕。	粗粒輝石安山岩

## 遺物観察表

遺構外出土遺物観察表 (76) \*石器計測値①長さ(mm) ②幅(mm) ③厚さ(mm) ④重量(g)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	器形・技法等の特徴	備考
第264図 PL.145	1860	石器 磨・敲石	包No.2085 左半分欠損	① 121.0 ② (64) ③ 28 ④208.8	平面形は楕円形で偏平。表裏面磨り。上下縁、側縁に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1861	石器 敲・磨石	包No.1432 上半部	① (57.5) ② (54) ③ 33 ④121.4	平面形は隅丸長方形。表面、上面に敲痕。裏面、両側面に磨痕。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1862	石器 磨・敲石	包No.2208 下半部欠損	① (76) ② (82) ③ (47) ④305.9	ほぼ全面に磨痕。裏面、平坦で敲痕。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1863	石器 凹・磨・敲石	包No.2222 完形	① 111 ② 66 ③ 40 ④375.6	平面形は楕円形。表裏面中央に凹み。表面の凹みはやや深い。凹み周辺に磨り。右側縁に敲きが多い。上下縁、左側縁にも敲きが見られる。	粗粒輝石安山岩
第264図 PL.145	1864	石器 磨石	包No.2077 右上半部	① (56.5) ② (85.5) ③ 15 ④ 68.2	平面形は円形か。偏平。表裏面、上縁、右側縁に磨痕。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.145	1865	石器 磨・敲石	750-945G 上部片	① (81.5) ② (52) ③ (42) ④247.7	平面形は楕円形で、厚みがあり棒状。表裏面、側面に磨痕。表裏面の上部に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.145	1866	石器 凹・磨・敲石	包No.2225 下半部欠損	① (61) ② (55) ③ 39 ④186.3	平面形は隅丸長方形。表裏面中央に凹み。凹み周辺、両側面、上面に磨痕。上面、右側面に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.145	1867	石器 凹・磨・敲石	750-945G 完形	① 75 ② 55 ③ 47 ④266.6	平面形は楕円形。表裏面の中央に凹み。表裏面の凹み周辺、上下面、両側面に磨痕。両側面中央付近に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.145	1868	石器 凹・磨・敲石	740-935G 上半部	① (94) ② 70.5 ③ 48 ④421.7	表裏面に大きく、深い凹み。凹み周辺に磨痕。両側面と上面に敲痕。	粗粒安山岩
第265図 PL.145	1869	石器 凹・磨・敲石	755-940G 完形	① 135 ② 67 ③ 33 ④465.9	平面形は長楕円形。表裏面中央に2点ずつの凹み。凹み周辺は平坦で、よく磨られている。周縁部全体に敲き。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.145	1870	石器 磨石	No.5 右上半部	① (63) ② (66.5) ③ 21.0 ④ 97.7	平面形は図形か。偏平。表裏面、右側縁に磨痕。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.146	1871	石器 凹・磨・敲石	包No.1913 完形	① 115.0 ② 81.0 ③ 45.0 ④564.3	平面形は不整形な楕円。表裏面中央部に凹み。凹み周辺に磨痕。両側面中央部にやや多くの敲痕。上下面に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.146	1872	石器 凹・磨・敲石	包No.2399 平面形は楕円形	① (89.5) ② 84.0 ③ 42.0 ④438.3	表面中央に凹み。凹み周辺と裏面に磨り。裏面は平坦。上面と右側面に敲痕が見られる。	粗粒輝石安山岩
第265図 PL.146	1873	石器 磨石	No.43 完形	① 76.0 ② 59.0 ③ 15.5 ④ 94.4	平面形は楕円形で、偏平。表裏面は平坦。全面に磨痕。裏面は磨痕が縦、斜位で溝状となる。	粗粒輝石安山岩
第266図 PL.146	1874	石器 磨・敲石	No.6 上半部	① (121.5) ② (164) ③ 72.0 ④ 1880.8	平面形は楕円形。表面中央付近に浅い円形の凹み。浅い楕円形の凹みは内面がよく磨られている。表裏面全体によく磨られている。上縁部から右側縁部はよく磨られ、上縁部から左側縁部に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第266図 PL.146	1875	石器 磨・敲石	No.1 右上半部	① (62.0) ② (50.5) ③ (28.0) ④ 88.5	平面形は円形で偏平。表裏面は平坦で、磨痕。上縁から右側縁に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第266図 PL.146	1876	石器 磨・敲石	750-895G 上半部	① (43.5) ② (56.5) ③ (36) ④129.7	平面形は隅丸長方形。表裏面平坦で磨痕。上面、両側面に敲痕。	石英閃緑岩
第266図 PL.146	1877	石器 磨・敲石	No.114 完形	① 164 ②116 ③ 77 ④734.9	平面形は楕円形で厚みがある。表裏面は中央付近に敲痕で、周縁部は平坦で磨痕。上下面、両側面に磨痕、わずかに敲痕。	二ツ岳軽石
第266図 PL.146	1878	石器 磨・凹・敲石	No.46 完形	① 138 ② 65.5 ③ 41 ④538.6	平面形は隅丸長方形。表面中央付、裏面中央やや下部に凹み。表裏面の凹み周辺に磨痕。上下面、両側面に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第266図 PL.146	1879	石器 磨・敲石	No.233 上半部	① (82.0) ② (78.5) ③ (45.0) ④317.1	平面形は楕円形。表面は丸味を帯び、裏面は平坦。表裏面に磨痕。裏面はよく磨られている。上縁から左側縁にかけて敲痕。	粗粒輝石安山岩
第266図 PL.146	1880	石器 磨・敲石	No.230 完形	① 97.0 ② 94.0 ③ 48.0 ④684.5	平面形は円形で、表裏面平坦。表裏面、上下面両側面に磨痕。上下面に敲痕。両側面にわずかに敲痕。	溶結凝灰岩
第267図 PL.146	1881	石器 凹・磨・敲石	No.61 完形	① 107 ② 61.5 ③ 29 ④289.7	平面形は隅丸長方形。表裏面は中央付近に凹み。表裏面凹み周辺と上下面に磨痕。両側面に敲痕と凹み。	粗粒輝石安山岩
第267図 PL.146	1882	石器 磨・敲石	No.229 完形	① 142.5 ②100.5 ③ 24.0 ④518.2	平面形は不整形な楕円形。偏平で裏面から表面にやや反る。表裏面に磨痕。下縁、右側縁に敲痕。	ひん岩
第267図 PL.146	1883	石器 磨・凹・敲石	755-910G 完形	① 95 ② 64.5 ③ 37 ④353.1	平面形は楕円形。表・裏・中央付近に凹み。表裏面の凹み周辺は磨痕。上縁、両側縁に敲痕。	粗粒輝石安山岩
第267図 PL.146	1884	石器 磨・凹・敲石	750-910G ほぼ完形	① 113 ② 75 ③ 40 ④529.1	平面形は隅丸長方形。表裏面は平坦で、中央付近に凹み。凹み周辺は磨痕。上下面・両側面に敲痕。	ひん岩
第267図 PL.146	1885	石器 磨・凹・敲石	735-905G 完形	① 119 ② 75 ③ 43 ④570.2	平面形は楕円形。表裏面中央付近に凹み。表裏面の凹み周辺部に磨痕で、平坦。上下面、両側面に敲痕。	粗粒輝石安山岩



第4章 細谷合ノ谷遺跡

遺構外出土遺物観察表 (77) \*石器計測値①長さ(mm) ②幅(mm) ③厚さ(mm) ④重量(g)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	器形・技法等の特徴	備考
第267図 P.L.146	1886	石器 磨・凹石	750-905G 上半部	① (79) ② (75.5) ③ (51) ④ 324.4	平面形は楕円形。表裏面中央付近に凹み。凹み周辺部は磨痕。上面、両側面磨痕。	粗粒輝石安山岩
第267図 P.L.146	1887	石器 石皿	745-950G 片口部右半部	① (89.5) ② (78.0) ③ (47.0) ④ 243.8	平面形は長方形または楕円形。左側面はほぼ直角に立ち上がり、表面外縁は細く、急に立ち上がる。片口部は裏面が表面側に斜めに立ち上がる。	粗粒輝石安山岩
第267図 P.L.146	1888	石器 石皿	745-860G 右半部破片	① (79) ② (94) ③ (35) ④ 325.3	平面形は長方形または楕円形。表面は外縁部の高まりは細く、中央部が窪む。裏面は平坦で凹みあり。	粗粒輝石安山岩
第268図 P.L.146	1889	石器 石皿	包No.245 左上半部	①(215) ② (153) ③ 56 ④1869.1	平面形は円形または楕円形。表面外縁は巾広く、高く、中央部は深く窪む。裏面は平坦で1カ所深い凹み。	粗粒輝石安山岩
第268図 P.L.146	1890	石器 不明石製品	760-950G ほぼ完形	① (55.5) ② 53.5 ③ 22 ④ 26.9	平面形は方形または円形。裏面は平坦に磨り、整形される。表面に磨痕。	軽石
第268図 P.L.146	1891	石器 多孔石・石皿	包No.2001 破片	①(150) ② (110.5) ③ (42) ④ 444.3	石皿の転用。表面に多数の凹み。裏面は磨痕。石皿は裏面が皿部にあたる。	粗粒輝石安山岩
第268図 P.L.146	1892	石器 石皿・多孔石	包No.1354 片口部	① 126.5 ② 147 ③ 72 ④ 970.3	平面形は楕円形または隅丸長方形。表面片口部は表面側から裏面側に薄くなる。外縁から中央部にかけて凹む。裏面は平坦で凹みがあり、多孔石として転用。	粗粒輝石安山岩
第268図 P.L.146	1893	石器 不明石製品	760-950G 下半部	① (51) ② 51 ③ 18.5 ④ 29.2	平面形は隅丸長方形。偏平。両側面に比べ表裏面の中央付近が膨らむ。下面、両側面、表裏面に磨痕。	スコリア
第268図 P.L.146	1894	石器 砥石	包No.2065・2298 右上半部、左下半部欠損	①(136.5) ② (70) ③ 17 ④ 147.4	平面形は長方形。偏平。表裏面、上下面、両側面磨られている。表面上部に横方向の擦痕。	砂岩
第268図 P.L.146	1895	石器 石皿	750-945G 左上半部	①(157) ② (124) ③ (85) ④1294.9	平面形は楕円形。表面は外縁部の中が狭く、中央部が深く凹む。裏面は平坦であるが、凹みがあり、多孔石として使用か。	粗粒輝石安山岩
第268図 P.L.146	1896	石器 砥石	包No.1850 左下隅を欠損	① 65.5 ② 54.5 ③ 8.0 ④ 43.3	平面形は長方形。偏平。上下方向に磨痕で、溝状となる。	砂岩

## 第5章 細谷八幡遺跡の追加調査

### 第1節 遺跡の概要

細谷八幡遺跡の発掘調査は平成14年度から17年度にかけて行われ、その成果については第1集で報告したところであるが、現地にはごく一部未買収地が残り、それが未発掘のままになっていた。この遺跡付近の太田バイパスは未買収地を残したまま供用開始となったが、平成18年度になってその未買収地が解決し、歩道として工事する必要から急遽発掘調査が行われることになった。現地における調査は平成18年11月13日～11月30日に行われ、その後引き続き整理作業を行うことになったが、同時期に編集作業を進めていた第1集には時間的に間に合わず、掲載することはできなかった。そのため、その成果をここで追加報告することにしたものである。

細谷八幡遺跡は全域が蛇川西岸の台地上にあり、地形的な変化は乏しい。第1集で報告した遺構は、竪穴住居33軒、土坑85基、溝47条などである。遺跡はA～C区の3区に分けられ、そのうち、A・C

区は蛇川河川改修部分の調査区であり、B区がバイパス建設部分の調査区である。今回調査したのは、このB区と名付けた調査区のうち、平成17年度に調査を行った部分の南側隣接地である。

調査した遺構は、竪穴住居2軒、土坑12基、溝7条、ピット10基である。このうち竪穴住居1軒と溝6条とは平成17年度調査区にまたがって存在するものであり、そのため、これまで本遺跡で調査された主な遺構の合計数は、竪穴住居34軒、土坑97基、溝48条となった。

竪穴住居は、時期を確定できない少数のものをのぞいていずれも9世紀代のものであり、さらに大部分が9世紀後半に収まると推定される。集落の存続期間としてはかなり短いと考えられることが、本遺跡の最大の特徴であるが、その傾向は今回の調査においても同様であった。

### 第2節 竪穴住居跡

B-13号住居（第269図、第7表、P.L.147・152）

平成17年度に北壁の部分のみが調査された住居であり、今回全体を調査することができた。

位置 X=29727～731、Y=-42783～788

重複遺構 なし。

形態 東西に長い長方形。

方位 N-19°-E

規模 3.58×2.00m

面積 7.35㎡

壁高 24cm

床面 掘方には土坑状に深いところがある。それらを褐色土・暗褐色土で埋め戻し、床面としている。

柱穴 確認できなかった。

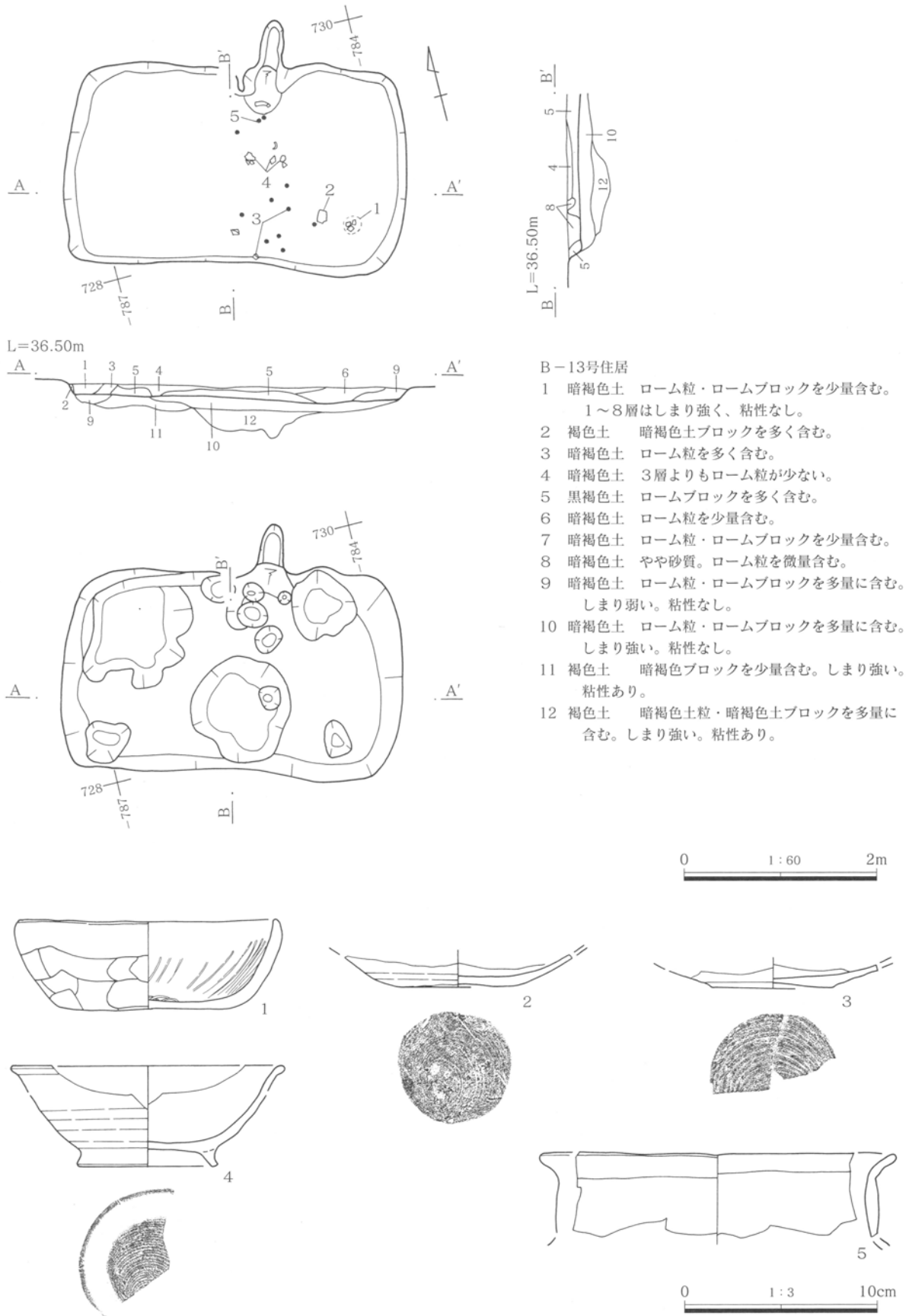
貯蔵穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

竈 平成17年度に調査したものである。住居北壁中央やや東寄りに造られている。燃焼部は住居内に、煙道部は壁から突出して構築されている。燃焼部長さ27cm、煙道部長さ42cm、焚き口幅17cmである。使用面の燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がっている。焚き口周辺は掘り窪められている。

遺物 住居中央から土器片が散らばるように出土した。そのうち報告できるのは土師器坏1点、須恵器坏2点、同高台付塊1点、土師器甕1点である。

所見 横長の形態の住居である。出土遺物から、その時期は9世紀後半と考えられる。



第269図 B-13号住居平・断面図、出土遺物

B-24号住居 (第270~272図、第7表、P.L.147・152)

B区南西部にある。北側の一部は今回の調査区外となるが、ここはすでに道路が完成している部分に近く、安全確保のためさらに掘り広げることができなかった。

位置 X=29730~733、Y=-42811~815

重複遺構 なし。

形態 北壁が調査区外であるが、方形であると思われる。

方位 N-64°-W

規模 (2.18) × 2.50m

面積 (5.57) m<sup>2</sup>

壁高 14cm

床面 掘方を暗褐色土で埋め戻して床面としている。一部地山のローム面をそのまま床面とする。

柱穴 確認できなかった。

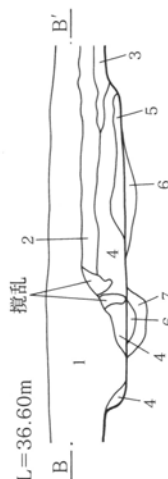
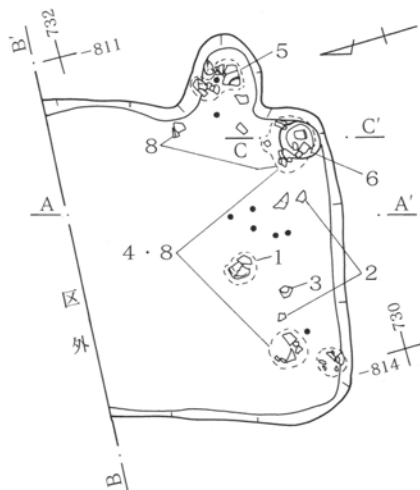
貯蔵穴 住居南東隅にある。長径34cm、短径28cmの楕円形で、深さは20cmであり、やや小型である。

周溝 確認できなかった。

竈 住居東壁面南寄りに造られている。焚き口幅60cm、長さ67cmである。竈からは少量の土器とともに、支脚と考えられる石が出土している。

遺物 住居南側から、比較的大型の破片が散らばるように出土している。報告できるのは土師器環1点、須恵器高台付塊2点、土師器甕5点、土師器甕1点の9点であるが、7と8は同一個体である可能性が高い。

所見 出土遺物から9世紀後半の住居であると思われる。

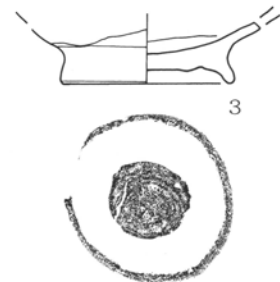
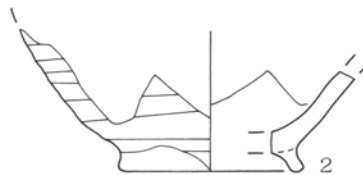
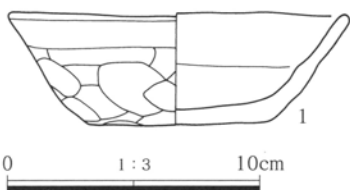
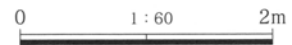
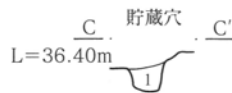
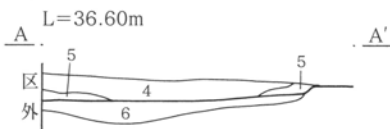


B-24号住居

- 1 表土
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性弱い。
- 4 黒褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり強い。粘性なし。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。
- 6 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性あり。
- 7 暗褐色土 ロームブロック多量、黒褐色土ブロック少量含む。しまり強い。粘性なし。

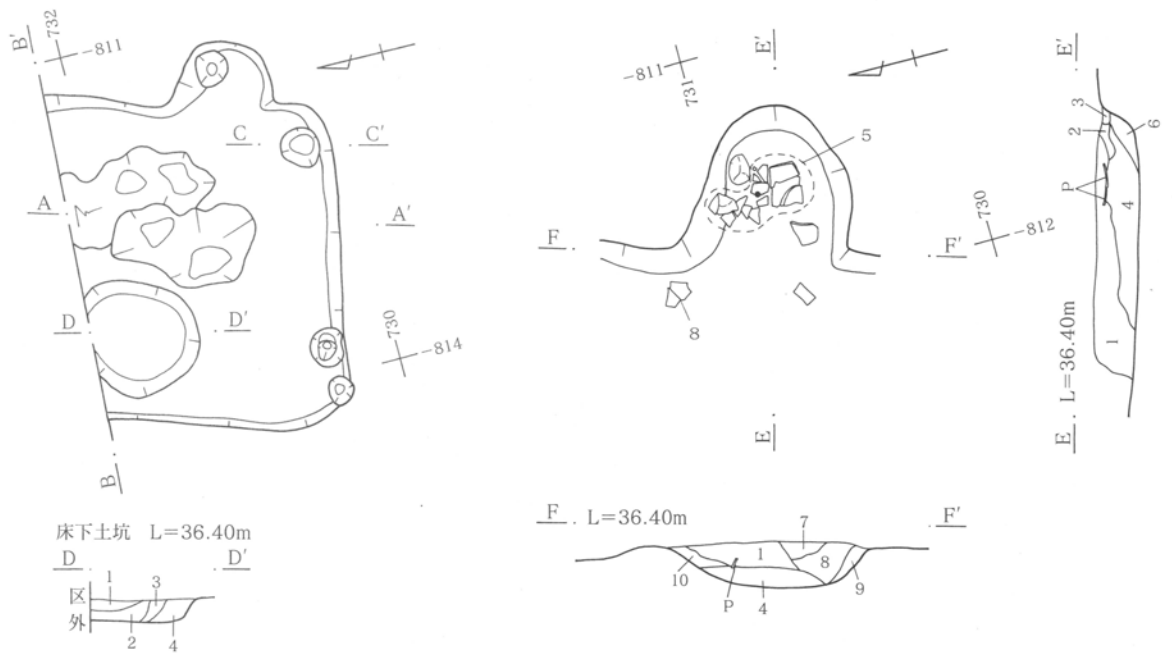
B-24号住居貯蔵穴

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒・焼土ブロック少量含む。しまり・粘性弱い。



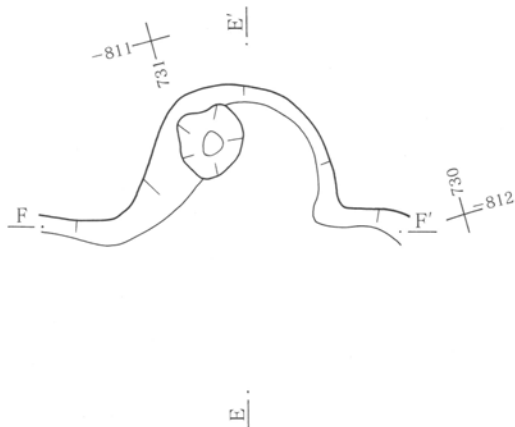
第270図 B-24号住居平・断面図、出土遺物(1)

第5章 細谷八幡遺跡の追加調査



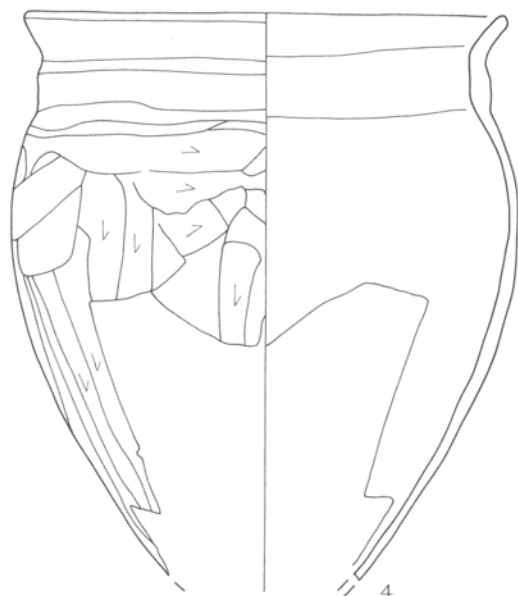
B-24号住居床下土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性あり。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量、黒褐色ブロック少量含む。しまり強い。粘性なし。
- 3 暗褐色土 2層に近いがロームブロックがより多い。
- 4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまり弱い。粘性なし。

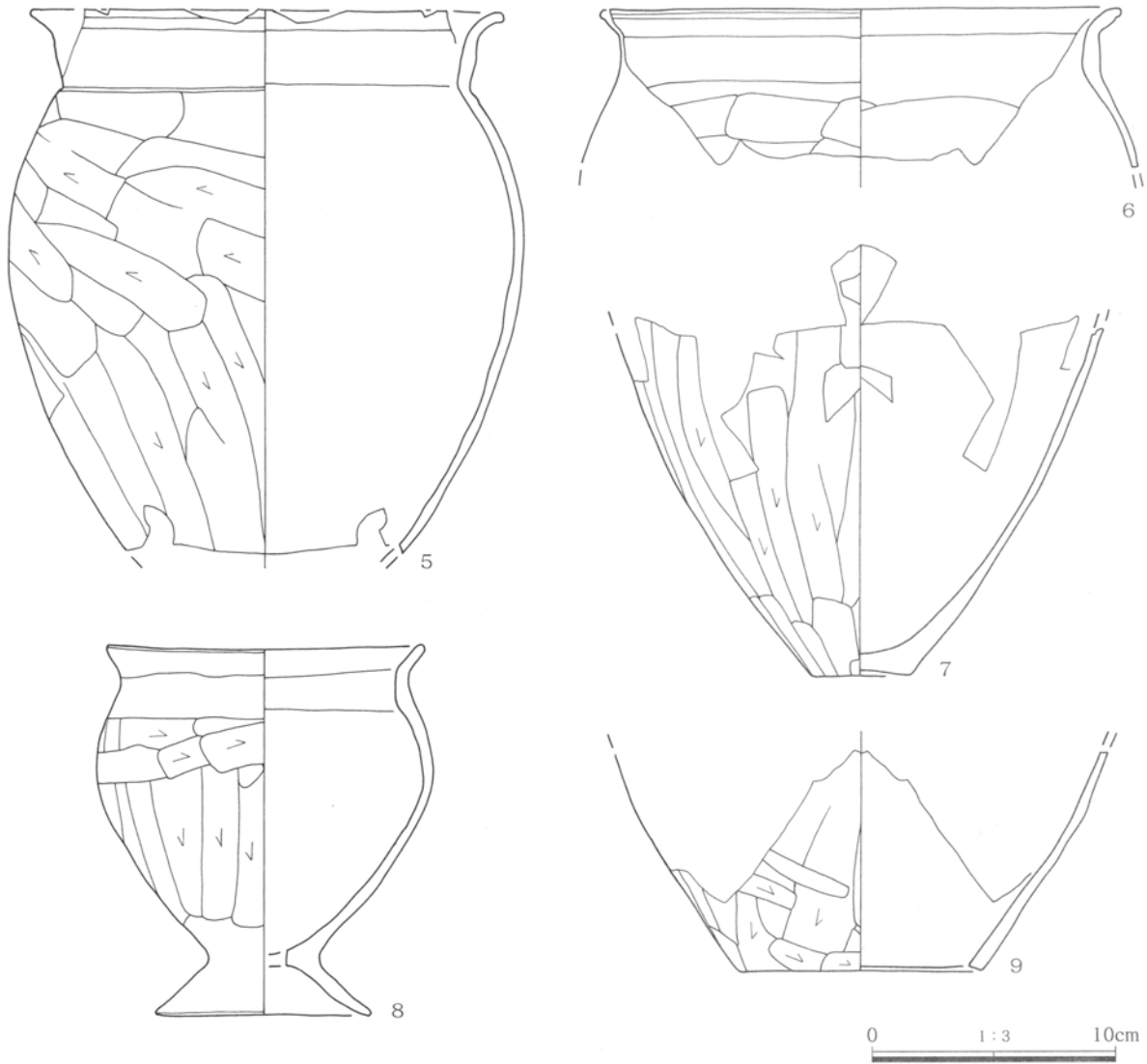


B-24号住居竈

- 1 暗褐色砂質土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。
- 2 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロックを多く含む。しまり弱い。粘性なし。
- 3 黒褐色土 やや砂質。焼土粒を微量含む。しまり強い。粘性なし。
- 4 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒・焼土粒を多く含む。しまり弱い。粘性なし。
- 5 灰黄褐色土 ロームブロックを多く含む。しまり強い。粘性あり。
- 6 暗褐色砂質土 ローム粒・焼土粒を微量含む。しまり強い。粘性なし。
- 7 暗褐色砂質土 6層に近いが、ローム粒・焼土粒が多い。
- 8 にぶい黄褐色土 ローム粒を多く含む。しまり強い。粘性なし。
- 9 暗褐色土 1層に近いが、ローム粒・焼土粒が多い。



第271図 B-24号住居掘方・竈平・断面図、出土遺物(2)



第272図 B-24号住居出土遺物（3）

### 第3節 土坑

土坑は12基調査した。平成17年度の調査区とまたがるものはなく、すべて今回初めて調査したものである。それらの土坑の計測値は第5表にあげたとおりである。全体の配置は付図1にみるとおりであるが、特にその配置に意味を認めることはできない。

いずれの土坑も出土遺物は少なく、時期・性格とも不明である。これらのうち、51号土坑は浅い皿状の土坑であるが、底面に石を並べたような状態であった。その形状から礎石の根石かと思われたが、周辺に同じものはなく、単に邪魔な石を埋め込んだものであると思われる。

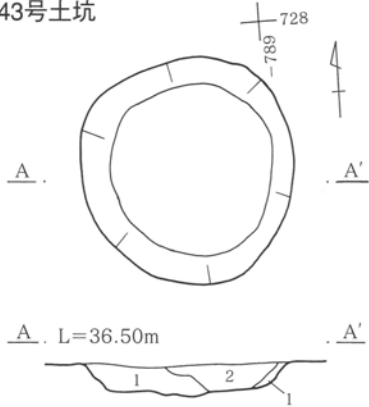
第5表 土坑一覧表

No.	位置	大きさ (m)			方位
		長軸	短軸	深さ	
43	726-788	1.22	1.12	0.19	N-14°-W
44	725-784	(0.88)	0.73	0.39	N-13°-E
45	725-787	1.54	(0.48)	0.14	N-86°-W
46	726-790	0.55	0.52	0.19	N-66°-E
47	729-799	0.43	0.37	0.13	N-42°-E
48	726-783	0.68	0.55	0.24	N-11°-E
49	726-782	0.98	0.77	0.36	N-10°-E
50	725-779	3.05	(0.95)	0.26	N-66°-W
51	726-791	1.00	0.67	0.08	N-74°-E
52	730-800	0.63	0.52	0.56	N- 3°-E
53	728-817	1.49	1.48	0.14	N-84°-W
54	728-817	0.87	0.65	0.55	N-53°-W



第5章 細谷八幡遺跡の追加調査

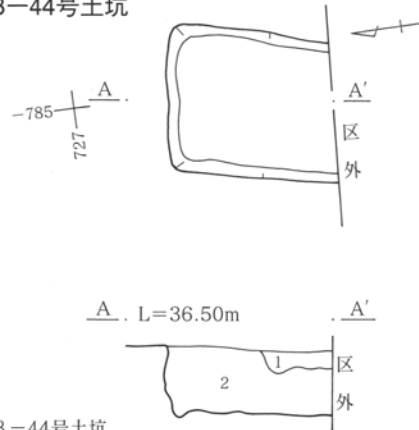
B-43号土坑



B-43号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまり弱い。粘性なし。
- 2 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり弱い。粘性なし。

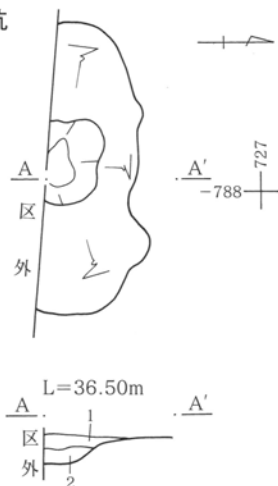
B-44号土坑



B-44号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。しまり強い。粘性なし。
- 2 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり弱い。粘性なし。

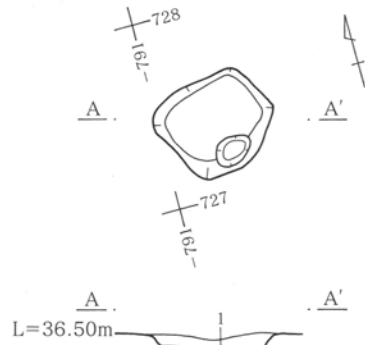
45号土坑



B-45号土坑

- 1 黒褐色土 焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。しまり弱い。粘性なし。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまり弱い。粘性なし。

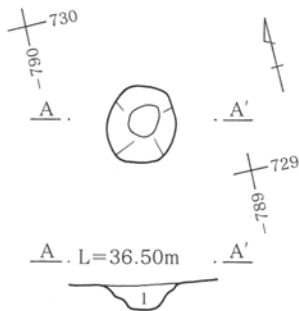
46号土坑



B-46号土坑

- 1 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり弱い。粘性なし。

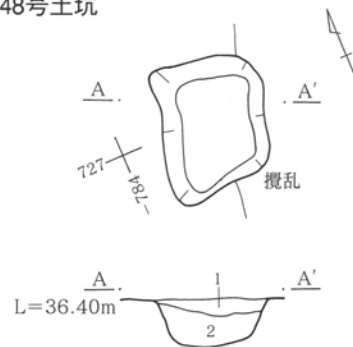
B-47号土坑



B-47号土坑

- 1 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり弱い。粘性なし。

B-48号土坑



B-48号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。しまり強い。粘性なし。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。



第273図 B-43号~48号土坑平・断面図

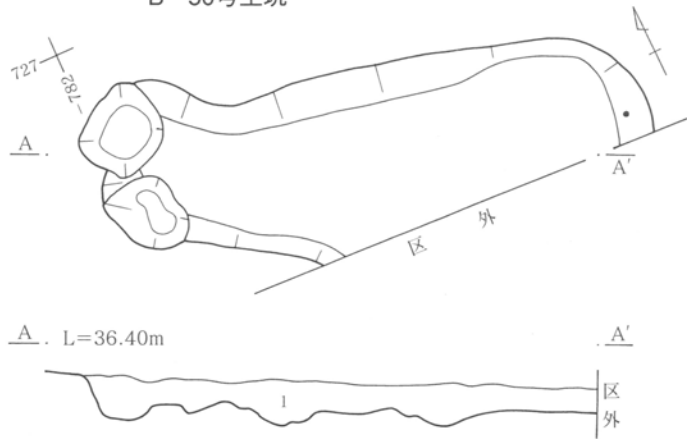
B-49号土坑



B-49号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を少量含む。しまり強い。粘性なし。

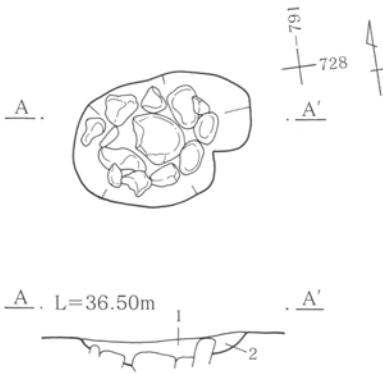
B-50号土坑



B-50号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。しまり強い。粘性なし。

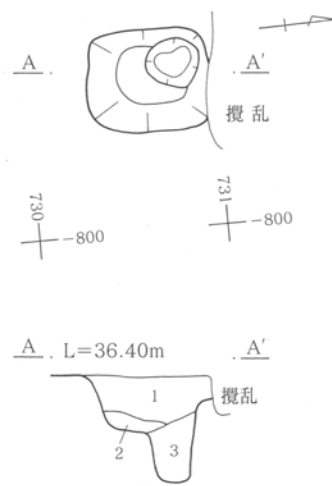
B-51号土坑



B-51号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を多く含む。しまり強い。粘性なし。  
2 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり弱い。粘性なし。

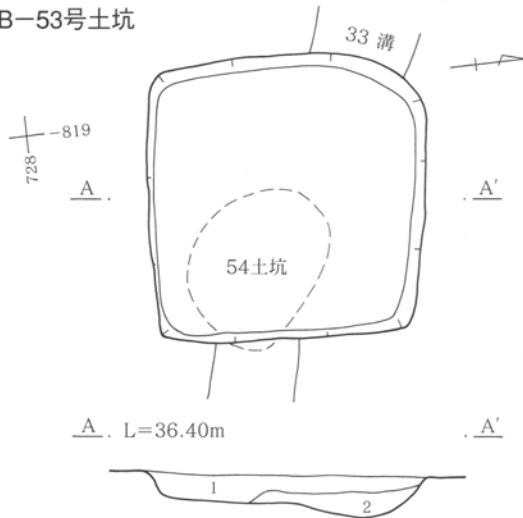
B-52号土坑



B-52号土坑

1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまり弱い。粘性なし。  
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を少量含む。しまり弱い。粘性なし。  
3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまり強い。粘性なし。

B-53号土坑



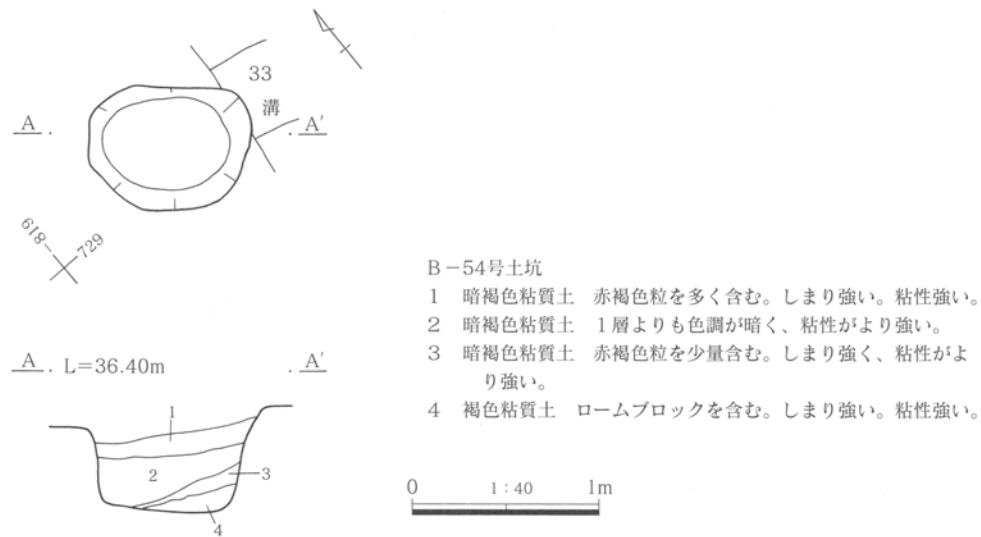
B-53号土坑

1 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり弱い。粘性なし。  
2 灰褐色土 砂質土を少量含む。しまり強い。粘性弱い。



第274図 B-49号~53号土坑平・断面図

B-54号土坑



B-54号土坑

- 1 暗褐色粘質土 赤褐色粒を多く含む。しまり強い。粘性強い。
- 2 暗褐色粘質土 1層よりも色調が暗く、粘性がより強い。
- 3 暗褐色粘質土 赤褐色粒を少量含む。しまり強く、粘性がより強い。
- 4 褐色粘質土 ロームブロックを含む。しまり強い。粘性強い。

第275図 B-54号土坑平・断面図

第4節 溝

溝は7条調査した。このうち、5号・19号・20号・21号・27号・28号の6条は平成17年度の調査区からのびている溝であり、33号のみが今回初めて見つかったものである。なお、平成17年度に調査した溝のうち、4号溝と7号溝の2本は、その延長部分が今回の調査区にかかるはずであったが、見つかることはできなかった。おそらく調査区の境界付近で途切れるか、極端に浅くなってしまおうものと思われる。

B-5号溝 (第276図、P L.149)

西端近くを南北に横断する溝で、平成17年度調査区から続いている。

位置 X=29727~737、Y=-42822~825

重複遺構 北側で33号溝と重複する。新旧関係は不明である。

形態 ほぼ直線的にのびている。平成17年度調査区でも同様に直線的である。断面形状は逆台形で、底面は平坦である。

走向 N-0°

規模 今回調査した長さは約4.5mであるが、平成17年度調査区をあわせれば、北端から南端まで

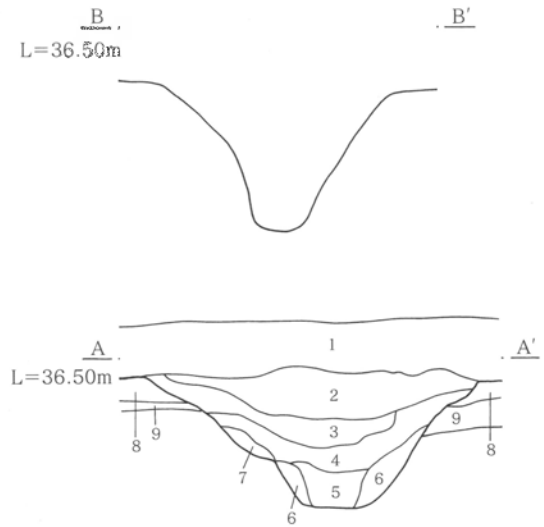
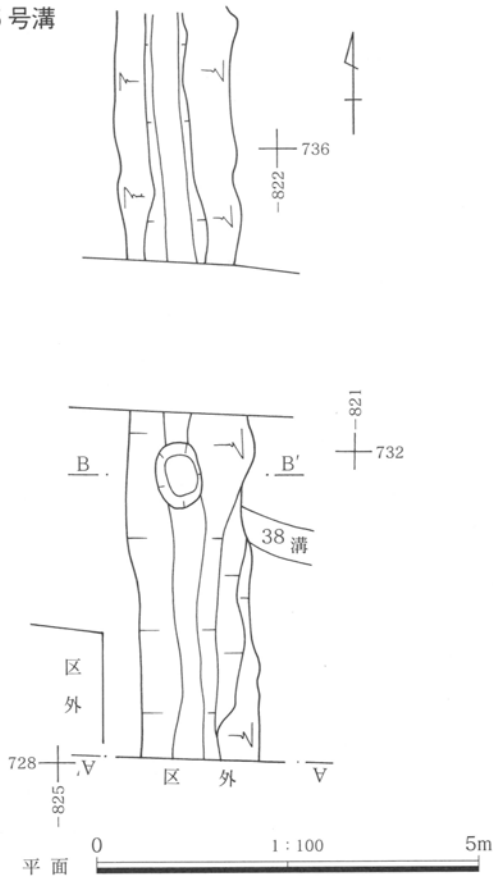
約26.5m分を調査したことになる。両端はさらに調査区外にのびている。今回の調査区では、上面幅は1.45~1.70m、底面幅は27~45cm、深さは南壁の断面で測って94cmである。

埋土の状態 ロームブロックを含む暗褐色土・灰褐色土で埋没している。砂などは見られず、流水のあった形跡はない。

遺物 土師器・須恵器の小破片が出土しているが、報告できるものはない。平成17年度の調査区では土錘を中心とした遺物が比較的多く出土している。

所見 平成17年度調査区の出土遺物から、古代の溝であると考えられるが、詳細な時期は不明である。

B-5号溝



B-5号溝

- 1 表土
- 2 暗褐色土 砂質土が混ざる。黄褐色のローム粒をごく少量含む。
- 3 暗褐色土 1層よりも色調が暗い。
- 4 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を微量含む。しまり強い。粘性弱い。
- 5 灰褐色粘質土 ロームブロックを微量含む。しまり強い。
- 6 暗褐色土 黄褐色ローム粒を多量に含む。軟質でしまりなし。
- 7 5層に近いがロームブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを多量に含む。
- 9 黄褐色土 ローム漸移層。



第276図 B-5号溝平・断面図

B-19号溝 (第277図、P L.149)

今回の調査区の中央にある南北方向の溝であり、平成17年度調査区から続いている。

位置 X=29726~732、Y=-42802~806

重複遺構 なし。

形態 平成17年度調査区の北端部分を除き、ほぼ直線的にのびている。断面はやや深い皿状である。

走向 N-23°-E

規模 今回は4.7m分を調査した。平成17年度をあわせると、約25mを調査したことになる。両端はさらに調査区外にのびている。今回の調査区では、上面幅1.13~1.29m、底面幅0.73~1.00m、深さは南壁の断面で測って29cmである。

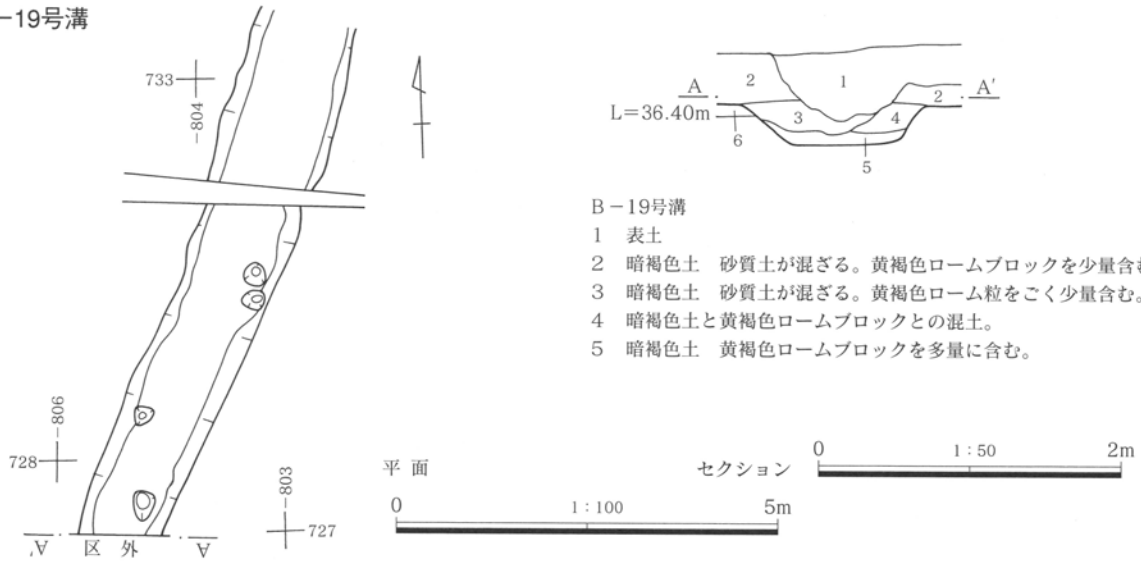
埋土の状態 ロームブロックを含む暗褐色土で埋没

している。砂質土を含むが、流水があった痕跡はない。

遺物 平成17年度調査区も含めて、土師器・須恵器の小破片が出土しているのみであり、報告できる遺物はない。

所見 出土遺物が少ないが、第1集ではその形態から「近世以降」と推定した。しかし、近世以降の遺物は出土していないので、より古く遡る可能性もある。

B-19号溝



B-19号溝

- 1 表土
- 2 暗褐色土 砂質土が混ざる。黄褐色ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 砂質土が混ざる。黄褐色ローム粒をごく少量含む。
- 4 暗褐色土と黄褐色ロームブロックとの混土。
- 5 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを多量に含む。

第277図 B-19号溝平・断面図

B-20号溝 (第278・279図、第7表、P.L.150・153)

今回の調査区では中央にある南北方向の溝であり、平成17年度調査区から続いているが、その間に大きな攪乱が入っている。

位置 X=29726~731、Y=-42793~796

重複遺構 なし。

形態 平成17年度調査区では中央付近で蛇行するが、その南側では今回の調査区も含めて直線的にのびている。西側に大きな攪乱が入り、西壁が破壊されている。断面は逆台形である。

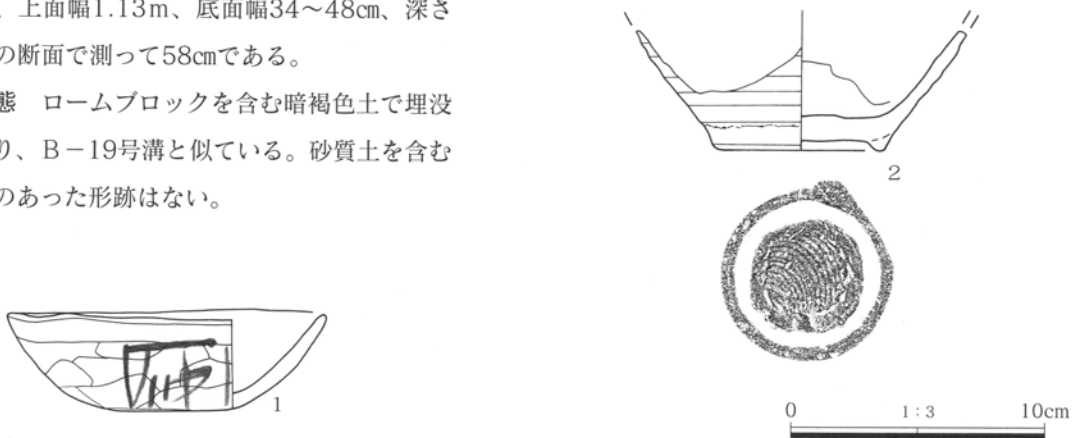
走向 N-12°-E

規模 今回調査した長さは4.1mであり、平成17年度調査区をあわせると28.3mとなる。今回の調査区では、上面幅1.13m、底面幅34~48cm、深さは南壁の断面で測って58cmである。

埋土の状態 ロームブロックを含む暗褐色土で埋没しており、B-19号溝と似ている。砂質土を含むが流水のあった形跡はない。

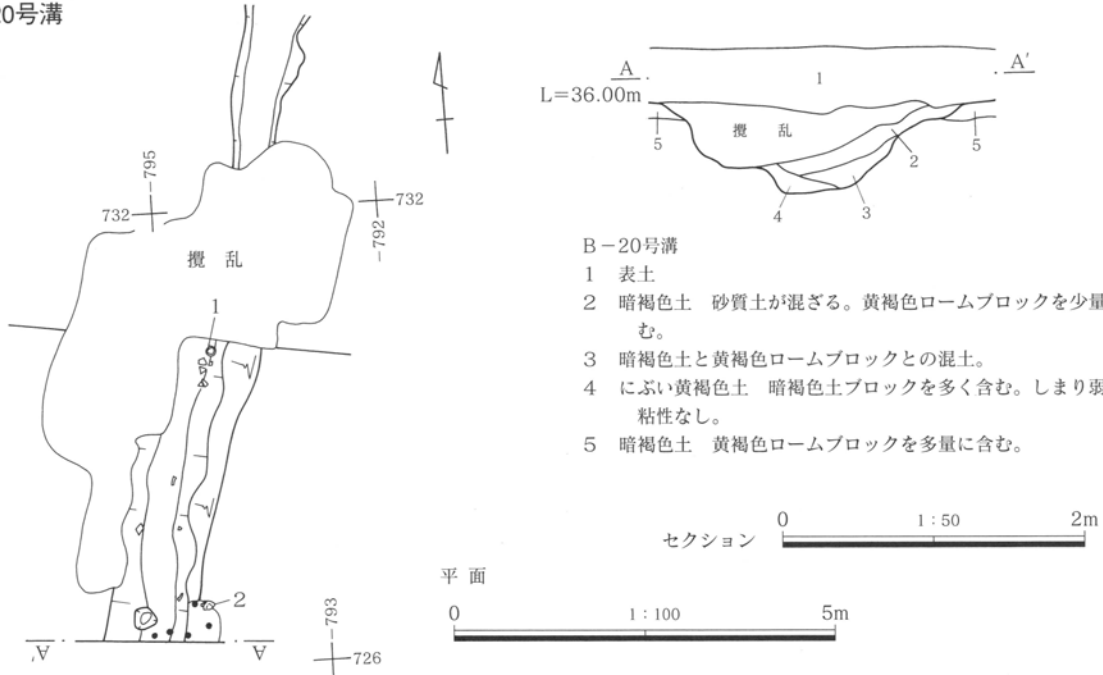
遺物 出土遺物は少なく、報告できるのは2点である。1は土師器坏で外面に墨書があり、2は須恵器高台付埴である。墨書は□の中に「仲」と書かれたもので、同様なものがB-18号住居から出土している。平成17年度調査区では遺物の大部分が南半部から出土しており、今回の調査区で出土した土器はそれらと一連のものであろう。

所見 第1集では本溝の時期を、B-19号溝と走向・規模が似ていることから、近世以降と推定した。確かに19号溝とは土層も類似しているが、出土遺物に近世のものはないので、より古く遡る可能性も考えられる。



第278図 B-20号溝出土遺物

B-20号溝



- B-20号溝
- 1 表土
  - 2 暗褐色土 砂質土が混ざる。黄褐色ロームブロックを少量含む。
  - 3 暗褐色土と黄褐色ロームブロックとの混土。
  - 4 にぶい黄褐色土 暗褐色土ブロックを多く含む。しまり弱い。粘性なし。
  - 5 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを多量に含む。

第279図 B-20号溝平・断面図

B-21号溝 (第280図、P L.150)

今回の調査区の東端にある南北方向の溝である。27号溝、28号溝に挟まれ、3条が平行している。  
位置 X=29725~729、Y=-42773~775  
重複遺構 なし。

形態 今回の調査区ではほぼ直線的だが、平成17年度調査区では中央付近で蛇行している。断面形状は逆台形ないし蒲鉾形である。南端部では隣接する27号溝と接合したような形態となる。

走向 N-8°-E

規模 今回調査した長さは3.8mである。今回の調査区内では幅53~74cm、深さは30cmである。

埋土の状態 砂質土を含む暗褐色土で埋没している。砂を含むものの、流水があった形跡はない。

遺物 土師器・須恵器の小破片が出土しているのみで、報告できるものはない。

所見 今回の調査では時期を示すような遺物は出土していないが、平成17年度調査区では近世以降の遺物が出土しているため、本溝の年代は近世以降と思われる。

B-27号溝 (第280図、P L.150)

今回の調査区の東端にある南北方向の溝である。21号溝、28号溝と平行している。  
位置 X=29725~729、Y=-42774~776  
重複遺構 なし。

形態 今回の調査区では直線的であり、そのまま平成17年度調査区でも直線的にのびている。断面形状はやや深い逆台形である。南端部では隣接する21号溝と接合したような形態となる。

走向 N-8°-E

規模 今回調査した長さは3.8mである。今回の調査区内では幅51~58cm、深さは45cmである。

埋土の状態 やや砂質の暗褐色土で埋没しているが、底面付近は締まりがなくやわらかい土である。流水のあった形跡はない。

遺物 近世以降の軟質陶器・瓦片が出土しているが、小破片であり図示できなかった。平成17年度の調査区では土師器・須恵器の小破片が少数出土しているのみである。

所見 出土遺物は少ないが、近世以降の遺物がみられるので、本溝の年代は近世以降と考えられる。



B-28号溝 (第280図、P.L.150)

今回の調査区の東端にある南北方向の溝である。21号溝、27号溝と平行している。平成17年度のB-28号溝とは直接接続しないが、位置から考えて一連のものと判断した。

位置 X=29725~727、Y=-42773~774

重複遺構 なし。

形態 今回の調査区内では直線的で、南北両端はさらに調査区外へのびている。しかし平成17年度調査区の28号溝南端は今回の調査区の手前で途切れている。そのため本溝の北端は、調査できなかった部分の途中で途切れているはずであり、直接接続しない。平成17年度調査区では南部と北端部で蛇行しているものの、全体としては直線的であった。断面形状は逆台形である。

走向 N-5°-E

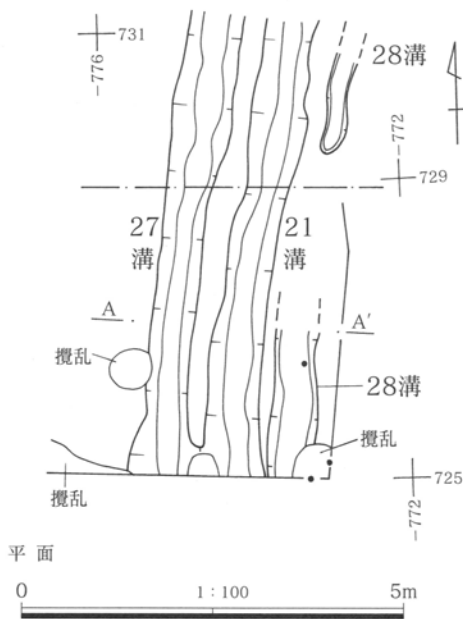
規模 今回の調査できたのはわずか1.95m分だけである。今回の調査区内では幅52~64cm、深さは25cmであり、平成17年度調査区に比べて深い傾向がある。

埋土の状態 黒色土ないし暗褐色土で埋没している。流水のあった形跡はない。

遺物 須恵器や灰釉陶器の破片と共に近世以降の瓦の破片が出土しているが、いずれも小破片であり報告できるものはない。平成17年度調査区では遺物の出土はなかった。

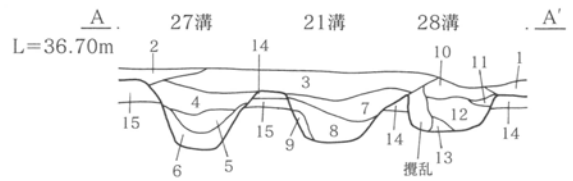
所見 報告書第1集では溝の規模などから近世以降のものとして推定したが、今回出土した遺物から近世以降であることが確認できた。

B-21号・27号・28号溝



B-21・27・28号溝

- 1 暗褐色土 表土の残り。
- 2 暗褐色土 黄褐色ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。黄褐色ローム粒含む。
- 4 暗褐色土 (27号溝) 砂質土が混ざる。黄褐色のローム粒をごく少量含む。3層よりも軟質。



- 5 暗褐色土 (27号溝) 4層とほぼ同質だが、色調が暗い。
- 6 暗褐色土 (27号溝) 黄褐色ローム粒を多量に含む。しまりなく軟質。
- 7 暗褐色土 (21号溝) 砂質土が混ざる。黒色粘質土の小ブロック、少量の黄褐色ローム粒を含む。
- 8 暗褐色土 (21号溝) 砂質土が混ざる。黄褐色ロームブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土と黄褐色ロームブロックとの混土 (21号溝) 壁面の崩落土。
- 10 暗褐色土 (28号溝) 黄褐色ロームブロックをごく少量含む。3層よりもしまりが無い。
- 11 黒色土 (28号溝) 黄褐色ローム粒を少量含む。
- 12 黒色土 (28号溝) 下位に黄褐色ロームブロックを含む。しまりはない。
- 13 暗褐色土と黄褐色ロームブロックとの混土 (28号溝)
- 14 暗褐色土 黄褐色ローム粒を多量に含む。
- 15 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを多量に含む。

第280図 B-21号・27号・28号溝平・断面図

B-33号溝 (第281図、P.L.150)

西部にある斜め方向の溝であり、平成17年度調査区にはつながらない。

位置 X=29727~732、Y=-42812~823

重複遺構 西端で5号溝、中央付近で53号・54号土坑と重複し、いずれの土坑よりも本溝が古い。

5号溝とは、遺物からみると本溝が新しい。

形態 直線的にのびる。断面は逆台形である。

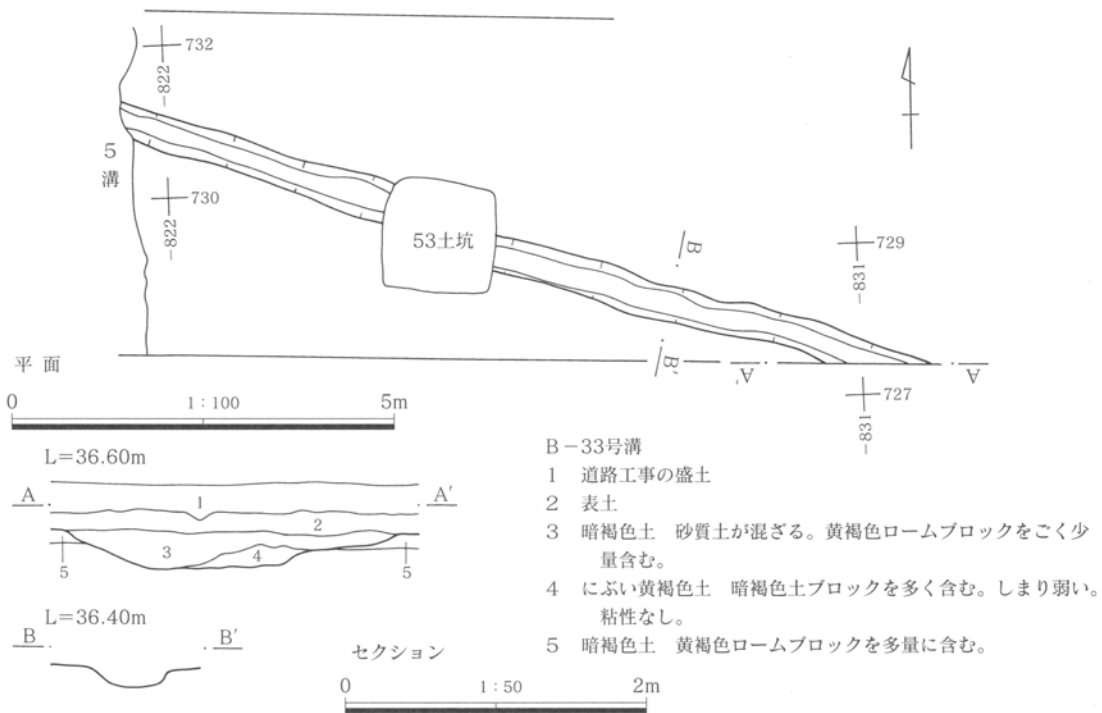
走向 N-72°-W

規模 調査できたのは10.5mであるが、東端はさらに調査区外へのびている。幅は39~55cm、深さは調査区南壁で計測して25cmである。

埋土の状態 暗褐色土・にぶい黄褐色土で埋没する。流水のあった形跡はない。

遺物 須恵器・灰釉陶器片のほか、近世以降の瓦片も出土している。

所見 遺物からみて近世以降の溝である。



第281図 B-33号溝平・断面図

第5節 ピット

ピットは合計11基調査した。それぞれに伴うような遺物は出土しなかったため、いずれも時期を確定することはできなかった。また、各ピットの配置に意味を認めることは困難であり、その性格も不明と言わざるを得ない。ここでは第6表に計測値を掲げ、それぞれの位置を付図1に示すにとどめることにする。

第6表 ピット一覧表

No.	位置	大きさ (m)		
		長軸	短軸	深さ
1	727-778	0.28	0.25	0.22
2	728-778	0.28	0.24	0.19
3	728-780	0.24	0.18	0.16
4	727-780	0.33	0.25	0.11
5	726-787	0.24	0.21	0.14
6	728-802	0.42	0.26	0.23
7	726-802	—	0.43	0.43
8	727-798	0.39	0.29	0.32
9	730-801	0.37	0.26	0.44
10	727-802	0.34	0.27	0.21
11	727-802	0.35	0.27	0.28

第5章 細谷八幡遺跡の追加調査

第7表 細谷八幡遺跡遺物観察表 (出土位置の+〇〇は床面からの高さを表す)

B-13号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第269図 P.L.152	1	土師器 坏	南東隅床面、 堀方 1/2	口径 (13.4) 底径 (9.2) 高さ 4.5	①砂粒・赤色粒多い ②普通 ③橙(5YR6/6)	底部平底、外面篋削り。体部外面撫での後下半篋削り。口縁部外面～内面横撫で。内面体部放射状、底部螺旋状の粗い暗文。	
第269図	2	須恵器 坏	南東隅床面 底部のみ	口径 - 底径 6.0 高さ (1.6)	①砂粒多い ②やや酸化焰 ③にぶい黄褐(10YR6/3)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後、外周篋削り。体部は大きく開く。表面摩滅。	
第269図	3	須恵器 坏	+8～10 底部1/2	口径 - 底径 (6.2) 高さ (1.2)	①砂粒多い ②やや酸化焰 ③浅黄(2.5Y7/3)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り。体部は大きく開く。	
第269図 P.L.152	4	須恵器 高台付塊	中央部床面～ +3 1/4	口径 (14.0) 底径 (7.1) 高さ 5.2	①白色粒子・礫含む ②還元焰 ③灰(5Y6/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部糸切り後高台貼り付け。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。	
第269図 P.L.152	5	土師器 甕	竈前+8、埋土、 堀方 口縁1/4	口径 (18.2) 底径 - 高さ (4.5)	①砂粒・白色粒子含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	コの字状口縁の部分。内外面とも横撫で。	

B-24号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第270図 P.L.152	1	土師器 坏	中央部+2 完形	口径 13.6 底径 7.1 高さ 4.4	①砂粒多く含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	底部平底、外面篋削り。体部外面下半指頭圧痕。口縁部内外面～体部内面横撫で。	
第270図 P.L.152	2	須恵器 高台付塊	+3～9、埋土 体部～底部1/3	口径 - 底径 (6.8) 高さ (5.7)	①砂粒・白色粒含む ②やや酸化焰 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	轆轤成形。轆轤回転方向不明。底部回転糸切り後、高台貼り付け。	
第270図 P.L.152	3	須恵器 高台付塊	+6、埋土 底部のみ	口径 - 底径 6.5 高さ (2.4)	①砂粒・赤色粒多い ②酸化焰 ③淡黄(2.5Y8/4)	轆轤成形。轆轤右回転。底部右回転糸切り後高台貼り付け。	
第271図 P.L.152	4	土師器 甕	床面、埋土 口縁～胴部1/3	口径 (19.0) 底径 - 高さ (22.3)	①砂粒・赤色粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁はコの字状。胴部外面縦方向、上部横方向篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。	7と同一個体か。
第272図 P.L.152	5	土師器 甕	竈埋土 口縁～胴部1/4	口径 (19.3) 底径 - 高さ (22.1)	①砂粒多い ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	口縁はややあまいコの字状。胴部外面上半斜め方向、下半縦方向篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。	
第272図 P.L.152	6	土師器 甕	南東隅床面 口縁1/5	口径 (21.2) 底径 - 高さ (6.4)	①砂粒・赤色粒含む ②普通 ③明黄褐(10YR7/6)	口縁はあまいコの字状。胴部外面横方向篋削り。口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。	
第272図 P.L.152	7	土師器 甕	床面、埋土、 竈埋土 胴部～底部1/3	口径 - 底径 4.0 高さ (17.6)	①砂粒・赤色粒含む ②普通 ③灰褐(5YR5/2)	胴部外面縦方向の篋削り。胴部内面横方向の篋撫で。	4と同一個体か。
第272図 P.L.152	8	土師器 台付甕	南西隅床面 1/2	口径 (12.8) 底径 (8.6) 高さ 15.1	①砂粒・赤色粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	胴部外面上部横方向、下半縦方向篋削り。台部内外面横撫で。口縁部内外面、胴部内面横撫で。台部貼付か。	
第272図 P.L.152	9	土師器 甕	竈両脇床面 底部小破片	口径 - 底径 (9.8) 高さ (8.9)	①砂粒・赤色粒多い ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	胴部外面縦方向、一部横・斜め方向篋削り。胴部内面撫で。	

B-20号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第278図 P.L.153	1	土師器 坏	北端埋土 完形	口径 12.5 底径 5.9 高さ 4.0	①砂粒・白色粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	底部平底、外面篋削り。体部外面篋削り。口縁内外面～体部内面横撫で。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁は外反しない。	体部外面墨書。 □の中に「仲」。
第278図 P.L.153	2	須恵器 高台付塊	南端埋土 体部～底部1/3	口径 - 底径 6.6 高さ (4.7)	①砂粒・小礫少量 ②還元焰 ③灰白(5Y7/1)	轆轤成形。轆轤右回転。底部回転糸切り後高台貼り付け。	

## 第6章 まとめ

### 第1節 福沢新田遺跡発掘調査の成果

福沢新田遺跡の発掘調査では数多くの遺構を調査したが、それらは旧石器時代の遺物と時期不明の土坑・溝などを除けば、古代の集落に関わる遺構と、近世以降の区画溝群とに大別することができる。以下、それらに関するいくつかの問題点について述べ、調査成果のまとめとしたい。

古代の集落に関わるのは、竪穴住居14軒のほか、掘立柱建物、土坑、溝、井戸などである。掘立柱建物は合計3棟あるが、出土遺物と形態からみて2号掘立柱建物が古代のものであると思われる。1号・3号掘立柱建物は、遺物が出土しないので時期を確定できないが、その形態からみて古代末～中世のものではないかと考えられる。土坑も時期を確定できたものがないので、実際に選び出すことはできないが、そのうちのいくつかは古代に遡るものであろう。

溝は、8・9・11・12・14号の5条が出土遺物や重複関係から古代に遡る可能性があるものである。特に11号は9世紀後半の13号住居に壊されているため、それ以前のものであることは確実であるが、その他の溝は8号溝を除いて出土遺物が少なく、詳細な時期を確定することはできない。

井戸は、1号・3号の2基が、中世以降の遺物が出土していないことから、古代に遡る可能性がある。

以上の遺構が古代の集落に関わる可能性のあるものであるが、注目されるのは、竪穴住居の時期がかなり短期間に収まることである。竪穴住居14軒のうちには、小面積の調査にとどまり遺物が出土しないために時期不明のものが2軒あるが、残りの12軒は、遺物が少なくやや不確実なものも含めて、全て9世紀後半のものと考えられる。今回調査した範囲のなかからは、その前後の時期の遺物はごくわずしか出土していない。そのため本遺跡の集落は、9

世紀後半というごく短い期間のなかで存続したものと思われる。

同じような時期の集落は、蛇川対岸の細谷八幡遺跡でも見ることができる。細谷八幡遺跡の成果の大部分は第1集で報告したところであるが、平成18年度調査分（本書で報告）も含め、調査した竪穴住居34軒のうち、時期の判明した20軒は全て9世紀後半である。そのほか、9世紀代には収まるとと思われるものが9軒あるが、これらのなかにも9世紀後半のものが含まれているものと思われ、集落の存続期間が9世紀後半を中心とした時期であることは間違いない。

さらに西側にある細谷合ノ谷遺跡では、その東端部分に9世紀中頃の竪穴住居（2号住居）が見つかっている。それよりも西側には近い時期の遺構は見られないので、これが集落の西端にあたるものと考えられる。

逆に本遺跡の東側に隣接する高林三入遺跡では、その最西端のA-1区で平安時代の竪穴住居2軒が調査されている（A区1号住居とA区2号住居）。A-1区は福沢新田遺跡2区の東側隣接地であり、また、『高林三入遺跡・八反田遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005）によればその時期はいずれも「9世紀中葉」とされているので、これも本遺跡の集落の一部であると思われる。この2軒の竪穴住居以東には近い時期の遺構が見られないので、これが集落の東端にあたるものと思われる。

以上のように、福沢新田遺跡を含め、この低台地上にはほぼ同時期の竪穴住居が広がっているのである。それらの時期は9世紀中頃から後半までというごく短い期間に収まり、その前後の時期の遺構・遺物はほとんど見られない。すなわちこの地には、わずか50年足らずの間だけ集落が営まれていたのでは

る。竪穴住居が分布する範囲は、今回調査した部分で東西約400mであり、その中に合計51軒の竪穴住居が比較的まばらに分布している。それらは存続期間の短さを反映して重複も少ない。南北の範囲は残念ながら不明であるが、この付近の台地は南北方向に広いので、集落の範囲も南北に長いものと考えられる。

ただし現在は細谷八幡遺跡と福沢新田遺跡との間に蛇川が流れ、それが深く狭い谷となって台地を分断しているので、集落も見かけ上二つに分けられる形となっている。その谷の深さは遺跡のやや下流の福沢橋付近で約6mもあるので、水量が豊富であれば、簡単に渡河することはできないであろう。しかしこの深い谷は人工的に開削された可能性もあり、集落の存在した当時からこのように深い谷であったかどうかは明らかではない（『太田市史』通史編自然（太田市 1996）97～100ページ）。当時蛇川と同じ位置に自然河川があったとしても、谷がさほど深くなければ、集落を完全に分断することはなかったと考えられる。だとすれば今回把握した集落の広がりか、一つの単位のムラであったと考えることもできる。現在では4つの遺跡に分けられて調査された集落も、本来は一つの単位であった可能性があるのである。

このように存続期間の短い集落が、この時期この地に営まれた要因は明らかにしがたい。県内の他の地域でも9世紀後半の住居の数は多い傾向にあり、前後の時期に比べてピークをなす時期であるというが、言うまでもなく、単にそういった傾向だけで本集落の性格を理解できるわけではない。本集落はかなり広い面積が想定できるので、さほど小さいムラではない。調査した範囲では遺構・遺物には特に他と異なったものがあるわけではなく、特別な役割をもったムラではないと思われる。そのようなムラがある時期形成され、短期間に消滅する要因がなんなのか、周辺の遺跡も含め、広い視野で集落の動態を比較検討することが、この地域の歴史を明らかにする上で今後ぜひとも必要であろう。

なお、本集落の主たる食料生産基盤は、南と東に広がる低地部に求めるのが妥当であろう。まだ同時期の遺構が見つかったわけではないが、この地域には広く条里制区画が残されていることが指摘されており、本遺跡に関わる水田がこの付近に営まれていた可能性は高いものと推定される。ただし、それらの条里制区画と、9世紀後半の本集落とを直接結びつけられるかどうかは、軽々に決めることはできない。現在では「条里制水田想定地」として、本遺跡の東側一帯を広くマークする例が見られるが、高林三入遺跡のように戦後のほ場整備による区画である場所もあり、個々の地点の条里制水田がどこまで遡るかは慎重な検討が必要だからである。もちろん、台地上における畠作も同時に行われていたと思われる、それらがこの集落の食料生産を支えていたものと思われる。

近世以降の区画に関わるとされる溝は、2～5号、10号、16号、19～22号などの溝であるが、このうち5号、10号などは発掘調査までこの地にあった宅地の区画に沿っており、ごく近年の区画方向を反映したものである。このように直線的に掘られ、直角に曲がる部分もある溝群は、出土遺物から近世後期以降のものと思われる、現在の区画につながるものであると思われる。それ以前の溝は概ね南北方向に近く、やや蛇行・湾曲しながら掘られているもので、古代～近世までのものがある。7号溝では、溝がほとんど埋まったところに焙烙片が大量に投げ込まれており、これを壊して5号溝が掘られているので、現在の区画が形成されたのはこの後であることが分かる。この地点では、近世後期まで方形の区画は作られていなかったであろう。

以上のように本遺跡では、旧石器時代以降長らく遺構が見られないが、9世紀後半には短期間集落が作られ、その後小規模な掘立柱建物や溝が掘られた後、近世後期になって区画溝が設けられ、それが現在へとつながっていったのである。

## 第2節 細谷合ノ谷遺跡発掘調査の成果

### 旧石器時代の調査の成果

細谷合ノ谷遺跡は西側が低地である。細谷南遺跡の東側（E区）の低地が細谷合ノ谷遺跡2区、さらに1区西側まで続く。1区東側から3区はローム台地である。1区東側から3区西側が南北に張り出した尾根状の地形になっている。3区西側から東側の細谷八幡遺跡にかけて徐々に低くなっている。

1区東側から3区西側の尾根状のローム台地から3点の遺物が出土した。2点が暗色帯上部から、1点は縄文時代の住居の調査時に出土した。

細谷合ノ谷遺跡の東側に隣接する細谷八幡遺跡では試掘調査を実施したが遺物は確認できなかった。さらに東の福沢新田遺跡では暗色帯上部よりナイフ形石器、縦長剥片、剥片の3点が出土した。細谷合ノ谷遺跡の遺物の出土状況と福沢新田遺跡の遺物出土状況は同じ状況である。

高林三入遺跡は福沢新田遺跡の東側に隣接する遺跡である。多量の遺物が出土し、ブロック等も確認されている。周辺では旧石器時代の中心になる遺跡、この高林三入遺跡の人々の活動の一端が細谷合ノ谷遺跡の遺物出土ということになるのだろうと考えられる。

### 縄文時代の調査の成果

細谷合ノ谷遺跡の縄文時代の遺構は、住居5軒のほか、土坑、ピットなどである。遺構は1区東側と3区西側の尾根状の台地部分に集中する。尾根状の台地に集落が営まれている。2区は低地で、1区西側は台地から低地に変換する地点で、この変換点に尾根状台地の集落から流れ込んだと考えられる土器や石器が多量に出土した。

縄文土器の出土は多い。時期は縄文時代中期後半の加曾利E式・後期初頭の称名寺式・後期前葉の堀之内式・後期中葉の加曾利B式である。中期加曾利E式以前のは見あたらない。加曾利E式でも加曾利EⅣ式が多く、わずかに加曾利EⅢ式と思われ

るものが確認できる。後期は称名寺式から堀之内式が主体である。称名寺式は称名寺Ⅰ式はなく、ほとんどが称名寺Ⅱ式である。堀之内式は堀之内Ⅰ式がほとんどであるが、わずかに堀之内Ⅱ式も確認できる。後期中葉の加曾利B式も少量確認できる。

最近の縄文土器研究では加曾利E式系統の土器が後期まで存続し、称名寺式土器と共伴する例が数多く報告されている。称名寺式土器は鈴木徳雄氏の研究により7段階に細分されている（註1）。また、後期まで存続する加曾利E式系統の土器を「加曾利EⅤ式」と鈴木徳雄氏は提唱している（註2）。

群馬県内の称名寺式土器の研究は石坂茂氏が1990年に称名寺式を4段階に細分した（註3）。また翌年には石坂茂・藤巻幸男・桜岡正信氏が前年の石坂氏の4段階の細分を再考している（註4）。ここで加曾利E式系統の土器が称名寺式の新しい段階、称名寺Ⅱ式まで残存することを示している。その後群馬県内では中期終末から後期初頭の遺跡の発掘調査が多く実施され、膨大な資料が蓄積された。この膨大な資料を基に2007年に谷藤保彦氏が称名寺式土器の共伴事例から加曾利E式系統の土器の変遷を一括性の高い資料を用いて示した（註5）。称名寺式土器を4期に分け、Ⅰ期を鈴木氏の称名寺Ⅰ～Ⅲ段階、Ⅱ期を称名寺Ⅳ・Ⅴ段階で、Ⅲ期は称名寺Ⅵ段階、Ⅳ期を称名寺Ⅶ段階とした。Ⅰ期で中期加曾利E式と後期の加曾利E式系統の土器の分離は困難であるが、加曾利E式系統の土器は存在し、4期まで変質しながらも存続が確実に認められるとしている。さらに堀之内Ⅰ式まで加曾利E式系統の土器の存続の可能性を示している。

以上称名寺式土器を中心に縄文時代中期終末から後期初頭の群馬県を中心に土器の研究の現状を記した。時間不足と整理担当者の力不足で細谷合ノ谷遺跡の縄文土器を分類し、十分に検討することができなかったのは残念である。整理し、報告するにあたって、谷藤氏が示した群馬県内の称名寺式土器様相



## 第6章 まとめ

や加曾利E式系統の土器の様相が細谷合ノ谷遺跡の状況と同じ傾向にあると思われる。細谷合ノ谷遺跡で中期加曾利E式とした中に、整理担当者の力不足で後期まで存続する加曾利E式系統の土器が含まれている可能性がある。本報告では加曾利E式系統または称名寺式併行としたものが後期まで存続する加曾利E式系統の土器である。

細谷合ノ谷遺跡の縄文土器は包含層出土が大半であるため一括性が低いのは残念であるが、今後の縄文土器研究の一資料として活用して頂けたら幸いである。

- 註1 鈴木徳雄 1990 「称名寺・堀之内1式の諸問題」『第4回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会
- 註2 鈴木徳雄 2007 「称名寺式土器研究の諸問題 -南関東地域の資料を中心として-」『第20回縄文セミナー 中期終末から後期初頭の再検討』縄文セミナーの会
- 註3 石坂 茂 1990 「群馬県内の称名寺式土器」『第4回縄文セミナー 縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会
- 註4 石坂茂・藤巻幸男・桜岡正信1991 「縄文時代後期初頭における加曾利E式系統土器の様相-群馬県域出土の資料を中心とした編年的分析」『群馬県史研究 34』
- 註5 谷藤保彦 2007 「加曾利E式の系統を引く土器群 -北関東における後期初頭の様相-」『第20回縄文セミナー 中期終末から後期初頭の再検討』縄文セミナーの会

書名ふりがな	ふくざわしんでんいせき・ほそやあいのやいせき・ほそやはちまんいせき
書名	福沢新田遺跡・細谷合ノ谷遺跡・細谷八幡遺跡
副書名	国道354号太田バイパス道路特殊改良一種事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	411
編著者名	金井武/高井佳弘
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20071019
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	ふくざわしんでんいせき
遺跡名	福沢新田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしふくざわまち
遺跡所在地	群馬県太田市福沢町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	361601
東経(日本測地系)	1392134
北緯(世界測地系)	361612
東経(世界測地系)	1392122
調査期間	20020313-20020331/20020401-20020531/20030701-20040131/ 20040601-20041228/20050401-20050831
調査面積	4012
調査原因	道路建設工事
種別	集落
主な時代	旧石器/平安/江戸
遺跡概要	包蔵地-旧石器-剥片3/集落-平安-竪穴住居14+掘立柱建物+土坑-土師器+須恵器/ 江戸-溝-焙烙
特記事項	9世紀後半を中心とした短期間の集落跡
要約	<p>本遺跡は群馬県東部の平野部にあり、大間々扇状地南東端の低台地上に立地する。調査した遺構は竪穴住居14軒、掘立柱建物3棟、土坑84基、溝33条、井戸3基、ピット16基である。それらには各時代のものが見られるが、主要なものは平安時代の集落跡である。竪穴住居は時期不明のものを除き全て9世紀後半のものであり、その前後の時期のものは見られない。住居の重複は少なく、調査範囲の東と西にやや散在的に分布する。この傾向は蛇川を挟んで隣接する細谷八幡遺跡と一致するので、両遺跡を含めた範囲が平安時代初期のごく短期間に営まれたムラの跡であったと思われる。溝は時期を特定できないものが多いが、少なくとも10条以上は近世のものであり、その走行方向が現在の地割りに引き継がれているものも多いので、この地域の古くからの区画溝であると思われる。そのうちの1条からは覆土上層から焙烙の破片が大量に出土しており注目される。旧石器は縦長剥片が3点出土したが、1点ずつ離れた地点から出土しており、周辺からはその他の遺物は出土していない。</p>

遺跡名ふりがな	ほそやあいのやいせき
遺跡名	細谷合ノ谷遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしほそやまち
遺跡所在地	群馬県太田市細谷町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	361602
東経（日本測地系）	1392121
北緯（世界測地系）	361613
東経（世界測地系）	1392109
調査期間	20030701-20040131/20040601-20041228
調査面積	4940
調査原因	道路建設工事
種別	集落
主な時代	旧石器/縄文/奈良・平安/江戸
遺跡概要	包蔵地-旧石器-石核1+ナイフ形石器2/集落-縄文-竪穴住居5+土坑-縄文土器+石器/集落-奈良・平安-竪穴住居3+溝-土師器+須恵器/江戸-溝
特記事項	縄文時代後期初頭の称名寺式～掘之内式期の集落
要約	<p>本遺跡は群馬県東部の平野部にあり、大間々扇状地南東端の低台地上に立地する。調査した遺構は竪穴住居7軒、竪穴状遺構1基、土坑109基、溝10条、ピット182基である。旧石器時代の調査で暗色帯上部から石核とナイフ形石器がそれぞれ1点出土した。また縄文時代の住居の調査時にナイフ形石器が1点出土した。縄文時代の調査は1区東側から3区西側にかけて住居5軒、埋甕3基、土坑を調査した。時期はいずれも後期初頭から前葉で称名寺式から掘之内式である。住居の床面や壁は確認できなかった。住居の形状は張出部が付き柄鏡形の可能性が考えられる。土坑の大半は住居とほぼ同じ時期である。平面形が円形で、断面形がフラスコ状あるいは袋状の土坑は貯蔵穴と考えられる。1区西側で台地から低地への変換点で多量に縄文土器が出土した。大半が集落と同じ縄文時代後期初頭から前葉のものである。古墳時代は土坑が1基確認されただけである。奈良・平安時代は住居2軒で、8世紀前半と9世紀後半のものである。8世紀前半の住居は遺跡周辺でも数少ないものである。</p>
遺跡名ふりがな	ほそやはちまんいせき
遺跡名	細谷八幡遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしほそやまち
遺跡所在地	群馬県太田市細谷町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	361601
東経（日本測地系）	1392124
北緯（世界測地系）	361612
東経（世界測地系）	1392112
調査期間	20061113-20061130
調査面積	342
調査原因	道路建設工事
種別	集落
主な時代	平安
遺跡概要	集落-平安-竪穴住居2+土坑+溝-土師器+須恵器
特記事項	9世紀後半を中心とした短期間の集落跡
要約	<p>本遺跡は群馬県東部の平野部にあり、大間々扇状地南東端の低台地上に立地する平安時代の集落跡である。この遺跡の調査は平成17年度まで行われ、その成果は第1集で報告済みであり、本書に報告するのは平成18年度に行われた追加調査の成果である。調査区はB区の南西側隣接地にあたり、竪穴住居2軒、土坑12基、溝7条、ピット10基を調査した。竪穴住居はいずれも9世紀後半のものであり、これまで調査してきた遺跡内容と一致する。</p>

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第411集

福沢新田遺跡・細谷合ノ谷遺跡・細谷八幡遺跡

国道354号太田バイパス道路特殊改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集  
第一分冊 本文編

---

平成19年10月 1日印刷

平成19年10月19日発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2  
電話 (0279)52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社

---